

校内ダンスコンクールの実態を探る

—お茶の水女子大学附属高等学校の事例より—

保健体育科 池田(尾畑)三鈴

研究目的

現在、国内における多くの中学校・高等学校では、体育祭でマ스ゲーム的なダンスをクラス単位もしくはチーム単位で発表し、順位を発表するという形式がとられ、教育的な意義や行事を盛り上げる効果を存分に発揮している。そのような時代の中、本校では昭和23年より「校内ダンスコンクール」(以下、ダンスコンクールと省略)というものが、伝統的な学校行事として続けられてきている。

「ダンスコンクール」とは、当初、運動会で行っていたダンスの発表会が独立したものである。そして当時、コンクール形式を取り入れ、ダンスを体育祭(運動会)とは別に位置づけて、感性や情操を養うことをねらうものとしたことは、本校独自の試みであった。それゆえに、ダンスコンクールで発表された作品の中でも特に優れたものは、高校生の優秀作品として国立代々木体育館やヤクルトホールで発表を行い、また「全国高校の伝統行事・名物イベント特集号」(学事出版他)でも紹介されるなどしたと記録が残っている¹⁾。このような歴史の流れの中で育まれてきたダンスコンクールは、今もなお全員参加の行事として文化祭、体育祭に続く三大イベントの一つとして存続しているのである。しかし、今年で55回目を迎えるまでの間、その在り方は長い歴史の中でも変化もしており²⁾、記録によれば、昭和62年をかわきりに、過去三度にわたって、生徒の運動によって廃止の危機を迎えている³⁾。

本年度、歴史と共に変容しつつあるダンスコンクールの開催に向けて拙者は、ダンスコンクール開催のチーフ教員として、生徒達が抱えるダンスコンクール開催までの問題と向き合いながら指導を行う機会を得た。そして生徒たちに必要とされ、親しまれる行事としての性質にも出会った。そこで、本研究では先行研究を手がかりとしながら、ダンスコンクールの歴史の変遷を辿り、「伝統」として引き継がれてきたものが何なのかを明らかにしたいと考えた。そして、全校生徒および教職員へのアンケート調査をもとに、現在の生徒達が実体験しているダンスコンクールの実態を探りその開催意義を考察することで、今後の指標について何らかの方向性を見出すことを試みたい。

研究方法

本研究は、先行研究をもとにダンスコンクールの歴史の変遷を辿り、アンケート調査を手がかりとして生徒たちが実体験しているダンスコンクールの実態に迫っていく。今回取り上げる主要な先行研究お

よびアンケート対象者は以下の通りである。

◆先行研究

- ①山中茂子 「運動会のダンス」 お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会『紀要』 5号、1959年、p.p.40-48
- ②三浦良子 「校内ダンスコンクール—その教育的意義と歴史的変遷—」 お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会 『紀要』 23号、1977年、p.p.139-164
- ③三浦良子 「校内ダンスコンクールを考える—本校の実践例より—」 お茶の水女子大学附属高等学校『研究紀要』 23号、1987年、p.p.57-82
- ④三浦良子 「校内ダンスコンクールについての報告(3)—49回の軌跡—」、お茶の水女子大学附属高等学校『研究紀要』 44号、1998年、p.p.107-155

◆アンケート対象者：本校生徒全員（3年生：113名、2年生：117名、1年生：116名）

本校教職員（20名、事務職員を含む）計366名

1. ダンスコンクールの歴史的背景

1.1 学校行事におけるダンスコンクールの位置づけ

昭和21年の記録によると、当時、運動会のダンスでは、既成の音楽に振付を行い、教員が創った既成作品を生徒が踊るとい学校が多かった。本校でもダンスコンクールの前身は「運動会のダンス」であり、当時の運動会次第では「音楽運動」という名称で記されている。そのような状況下で、昭和22年には当時の文部省により発表された「学校体育指導要綱」で、ダンスは以前の教授中心の形態から脱し、児童生徒の自主創造性を尊重するに新しい、しかも真にあるべき方向に向かっていった^{iv}。つまり、既成の音楽に振付けられた特定の踊りを、そのまま生徒に模倣させる教師中心の教育から、生徒の生活経験や日常の感情から取材して、自由に創造的に表現するというダンス本来の本質的なものへと教育方針が転換したのである^v。

このような歴史的背景の中、翌年の昭和23年より、本校の運動会では、生徒自身が創作したダンスを、コンクール形式で発表し競う、という他に例を見ない女子体育の先駆的な形式、「ダンスコンクール」として展開した。昭和60年にはダンスコンクールは運動会のダンスから独立した行事として行われるようになり、文化祭のオープニングという位置づけを経て、現在では、その年の文化祭開催テーマに関連させた単独の行事として成立している。

1.2 ダンスコンクールの原形にみる「表現」としてのダンス —学習指導要領の比較より—

前項に示したように、長い歴史を持つダンスコンクールの本質に迫ろうとする時には、本校における

ダンス指導の歴史的経緯をみる必要がある。よって本項では、ダンスコンクールの発足した昭和23年前後に文部省（現文部科学省）により出された「学校体育指導要綱」および、当時ダンスコンクールを担当していた体育科教官の山中茂子教諭（敬称略）によって記された実践研究を検証する。

まずはじめに、昭和22年に文部省が発表した「学校体育指導要綱」を参照すると、高等学校におけるダンスの指導は次のように記されている。

一、表現	1 自然運動によって基礎的身体をつくる
	2 生活環境や生活感情から取材して創作的表現に導く
	(イ) 生活環境 — スポーツ 器械 自然
	(ロ) 生活感情 — 喜び 希望 思い出 愁い
二、作品創作	表現技術によって作品を構成させる
三、作品鑑賞	鑑賞力を養い創作にも役立てる
	(民踊その他適当なものを参考作品として用いてもよい) ^{vi}

上記の内容からは、表現するための基礎的な身体を養い、自然界に見られる現象（たとえば風や波など）や表現者自身の体験や感情を題材として「創作」し、「表現」することを主としていることが読み取れる。このような流れをうけ、山中は本校での学校ダンスの在り方について次のように明記している。

単に既成作品を模倣して踊ることのみを経験させていては、模倣力を増し、よく動く身体をつくり、レクリエーションとして楽しむ方法を知らせることには貢献できても、個々人の精神的なものに働きかけ、自分の気持ちを自分の身体で自由に美しく創造して表現するという経験をさせたりその能力を養うことはできないでしょう。模倣をするよりは、自分で生み出すことの楽しみは更に深く、美しく表現しようと努力する過程において健康で有能な身体や情操を豊かにすることに貢献する力はより大きいといわねばなりません^{vii}。（下線部池田）

続けて、学校ダンスの本質についても次のようにとらえている。

ダンスの本質は、既成作品の模倣にあるのではなく、人間が、個々人の生活の中から得た感情や経験をリズムカルな美しい身体の動きによって創造的に表現するものであり、そこにダンスの生命があると云われるようになりました^{viii}。（下線部池田）

これら一連の記述からは、学校ダンスにおける指導の視点が、既成のダンス作品を教師が「教える」と

いう方向から、生徒自身の中から「引き出す」という方向へと転換したことが伺える。そしてこのような指導者の考え方は、生徒たちにも反映し、「踊らされるもの」ではなく「自ら踊る、表す」ダンスが、ダンスコンクールの中に息づいていったことが予測される。

では、近年のダンス指導の方針を記した平成元年以降の「新学習指導要領」では、学校ダンスの内容はどのように方向付けられているだろうか。その内容を以下に示す。

(1) 自己の能力に応じた課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、交流し、発表することができるようにする。

ア 創作ダンス イ フォークダンス ウ 現代的なリズムのダンス

(2) 互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、発表したりすることができるようにする。

(3) グループの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。また、発表交流会の企画や運営ができるようにする。^{ix}（下線部拙者）

この内容に加え「取り扱い」の部分では、「地域や学校の実態に応じて、社交ダンスなどその他のダンスについても履修させることができる」^xとある。

近年の学習指導要領では、ダンス学習における個人の課題解決と共に「協力」、「交流」など総合的な学習内容についての言葉が見られる。要するに、ダンスの授業では、ダンスを学ぶことにとどまらず、ダンスを通して、仲間との交流や自主性の発達などを学ぶということである。さらに、ダンス指導のジャンルに、新たに「現代的なリズムのダンス」や「社交ダンス」も加わったことで従来の「表現」という枠にとらわれない、より幅広いダンスが取り入れられるようになったことが明らかである。

昭和22年度と近年の指導要領の内容を比較すると、昭和22年には、ダンスで表現する、ダンスを創作、鑑賞すること、つまり「ダンスそのもの」の学習に焦点が絞られているのに対し、近年では「ダンスを通して」何かを学ぶ、そのために様々なジャンルのダンスを使用してよいという意味合いが強いように感じられる。

以上の指導要領の変遷と内容の比較を踏まえた上で、これらの考え方がダンスコンクールのダンスにどのような影響を及ぼす可能性があったか、整理しその特質について大きく以下三つの仮説として提示する。まず、第一にダンスコンクールの当初のダンスの色合いは、当時の学習指導要領ならびに指導者の導きによって形づくられたものであり、「表現」「創作」「鑑賞」の三点を押しえたものであること。この色合いは後に「伝統」として大切に受け継がれていったのではないか。

第二に、近年の学習指導要領ならびに現在の学校の教育方針等の影響を受け、ダンスコンクールにおけるダンスの活動を通して、生徒たちは、仲間と交流し、創作から発表までの過程の中で成長するとい

うことを目指しているのではないか。

第三に、近年の学習指導要領にあるように、「表現」という枠にとらわれない、ダンスの学習が広まっていることから、現在のダンスコンクールのダンスには、ジャンルにとらわれない様々なダンスの要素が入っている可能性がある。

以上の三つの仮説を、分析の視座にすえながら、次項からは本年度のダンスコンクールの実施概要と改革点について明らかにする。

2. ダンスコンクールの実施概要

「ダンスコンクールでは、‘創る・踊る・観る’という3要素をそれぞれ充分楽しめることを目指してコンクール本番までの活動を行っていく」。これは、ダンスコンクールの前提とも言うべき文言であり、本年度は本格的に活動が始まる2学期最初の授業の際に、教員側から生徒に提示した。これは、昭和22年の学習指導要領に示される「表現」「創作」「鑑賞」という言葉が簡略化したものである。生徒たちがどのように受け取り、解釈をしているかは様々であるが、それを指導する教員側で、もともとの意味を理解し意識的に伝達しなければ、「受け継がれるべき」内容は抜け落ちていく可能性があると思われた。

また本年度は、ダンスコンクールの振付の実質的な活動が始まる前に、生徒たちが自身で創作方法や演技の意識などについて考える機会を持てるよう、授業の中でダンスコンクールの実施概要についての講義を行った。次項ではその内容と改革点について明らかにする。

2.1 基本方針

本校では、昭和23年の運動会にダンスコンクール形式をとって以来、各学年対抗という形式は変わっていない。コンクールが行われた当初の条件は、各学年ともに、「自分たちで創作したものを踊ること」、「学年全体が参加すること」であり、その教育的考察としては、①創作力（表現力）、②指導力、③協調性（協力）、④美的総合感覚の養成（音楽・文学・美学）、⑤余暇の善用、⑥審査（コンクール制—評価・鑑賞）[※]が挙げられている。このような昭和初期に設定された基本方針を受け継いだ形で、現在、ダンスコンクールでは以下の3つの基本方針に基づき、1、2年生の「クラス単位」で活動を実施している。

- ① 1、2年生対抗のコンクール形式で行う
- ② 全員参加のこと
- ③ 演技時間は6分以上8分未満とする（超過は減点対象）

尚、3年生は昭和35年から「クラス」という単位に縛られず、学年全員や有志という単位で作品発表を行っていたが、昭和54年の「共通一次テスト」（現センターテスト）の開始と同時に、「学年全体が参

加する」という形式をとらなくなっている。現在は、「学年全体が参加」という意味合いを残して、3年生の生徒全員が、前記した教育的考察の⑥審査（コンクール制—評価・鑑賞）に参加している。

このように、現在の基本方針では作品発表の形式的な内容を記すことにとどまり、その教育的考察に当たる部分は、後述する「審査基準」の中に組み込んだ形をとっている。

2.2 係の決定

ダンスコンクールを開催するにあたり、その中核的な役割を担う係として、「ダンスコンクール委員」と「ダンスデザイナー」を紹介する。係を経験する生徒の比率は図1に示す通りである（図1参照）。

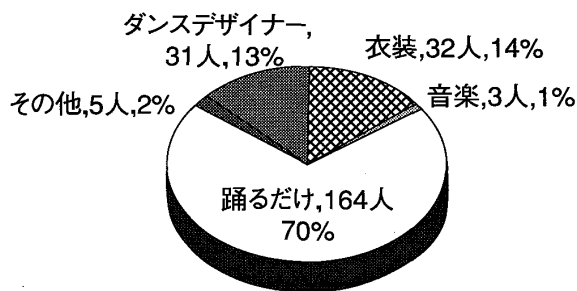


図1 ダンスコンクールの係経験比率

2.21 ダンスコンクール委員会（各クラス1名）

過去においては、「ダンス委員」、「ダンス係」という名称で呼ばれていた。また先行研究によれば、はじめはクラスから4～7名が立候補して勤めていた^{xii}が、昭和63年には役柄の負担が指摘され、平成5年にはダンスデザイナーの誕生により、仕事内容の分担がはかられた^{xiii}とある。

現在は、各クラス1名ずつのダンスコンクール委員を選出し、定期的に行われるダンスコンクール委員会に出席しながら、コンクールの企画運営を担当する。尚、この委員会は、生徒主導の自治会の管轄下にあるもので、例年2年生の委員会の中から1名が委員長となり、委員会の指揮をとる。委員会では、上記した内容に加え、コンクールの詳細な方針の設定や、実施要綱の再考、練習場所の分配、衣装費用の設定、パフォーマンス空間の設定など、コンクールのハード面を整え、より円滑にそしてレベルアップを目指して議論を重ね、それに基づいてクラスの指揮をとっていく。委員会は自治会活動の一つであることから、生徒主導の形式で議論をすすめるが、ダンスコンクールを担当する教員2名が必ず出席し、適宜アドバイスや指導を行う。資料①は、本年度の委員長が出演者全員に配布したダンスコンクールの説明文と、本番用のプログラム原稿である（資料①参照）。

2.22 ダンスデザイナー（各クラス5～6名）

各クラスから5～6名選出し、ダンスモチーフを創作、構成し、作品創作の中核となってクラスをリードする。資料②は、「グランプリ」受賞クラスのダンスデザイナーによって作成された振付表である（資料②参照）。

また、本年度の異例の状況としては、ダンスコンクールの改革に向けて浮上してくる問題を解決するために、ダンスデザイナーも委員会に参加し、一緒に検討を行うという場面があった。これは各クラス1名、計6名の委員会では発想できない運営や問題解決のアイデアを、実際にダンスを創っているデ

デザイナーの声も含め、反映させたいと考えたからである。

2.3 審査について —検討の経緯—

2.3.1 賞の設定

(1) 「特別審査員賞」の復活

本年度のダンスコンクールでは、「賞」の設定をどのようにして行うか、また昨年度は廃止された特別審査員を復活させるかどうかについて委員会で頻繁に審議した。教員側の投げかけとしては、審査を検討することは生まれてくる作品はもとより、生徒たちの活動自体の質を左右していくことが予測されたため、「どういうレベルまで持っていきたいのか」、「評価を必要とするシビアな側面を持たせるのか、単純にクラスとして楽しむ行事とするのか」という問題を提起し、検討を重ねることを試みた。

その結果、本年度は「3年生の人気投票にとどまらず、専門的な視点からも評価されたい」という意見で特別審査員と「特別審査員賞」を復活させることが決定した。すなわち生徒と教員の投票によって決まる「(旧)学校賞」は学内の人気投票にとどまるが、「特別審査員賞」は専門家によって評価された証という位置づけになる。そうすることで、生徒達は創作活動に負荷を持たせ、シビアになれる。このような審査員の目をおくことは、熱意ある練習状況や完成度の高い作品が創り出されるための環境設定の一つであると考えられた。

(2) 「学校賞」から「グランプリ」への改称

前項で示したように、特別審査員を復活させた場合、これまで「学校賞」と呼んできた賞と「特別審査員賞」の違いがはっきりしないという意見が生徒から出された。すなわち、学校賞は校内の審査員（3年生全員および教職員）によって選ばれた栄えある賞であるというイメージを明確にしたいということである。このようなイメージをふまえたうえで「学校賞」を改め「グランプリ」とした。

また、「特別審査員賞」と「グランプリ」、どちらの賞の評価が上かということは明確にはされなかった。これは、ダンスを評価するということが美の採点であり、採点をするのが専門家であっても3年生や教職員であっても、達成感が変わらないという意見からである。実際にコンクール終了後に、両賞に輝いたクラスの生徒にインタビューを行ったところ、それぞれ「校内で認められて嬉しい」、「専門家に選んでもらって嬉しい」という意見が多数であった。

(3) 「衣装賞」の増設

毎年、衣装サンプルの製作にかかわる生徒達は、限られた予算の中で衣装デザインのアイデアを絞り、クラス全員分の衣装生地を調達し、布を裁ち、配布し、製作指導をするという役目を果たしている。このような影ながらの努力に光をあて、より作品のイメージを効果的に表現し、作品の完成度に貢献したことを評価するものとして「衣装賞」を増設することになった（本年度の衣装予算は一人あたり

400円)。

2.32 審査基準

本年度は、昨年度までの審査基準を見直し、下記の5項目を基準として審査を行うこととした。

改訂前		改訂後
① テーマに沿った表現かつオリジナリティが表現されているか		① 全体としてテーマがいかに関表現されているか
② 動きや隊形の工夫がなされているか	⇒	② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに関工夫されているか
③ 音楽が動きとあっているか、つながりはなめらかか		③ 音楽、効果音の選び方が適切か
④ 一人一人の動きが十分生きているか		④ コスチュームは効果的か
		⑤ 踊り込みができているか

見直しの目的は、何を評価し、作品の良し悪しを決めるのかという問題が、生徒達の活動の基盤となると考えられた為である。さらに生徒側からも、「それなりに練習をして発表をするものなので、人気投票にとどまらない正当な評価が得たい」という意見が出たこともきっかけとなった。さらに、文化祭との関係性や、ダンスのコンクールということから評価の観点には、音楽や衣装を含む「総合芸術」としてのダンスという内容を加え、単に踊ることこみならず、感性を研ぎ澄まして表現の面白さを追及した、より高い芸術性を目指す「表現」のためのダンスを探求できるよう方向づけを行った。

生徒には、2学期の初回授業で審査項目を提示し、どこを工夫すればよいのか、「テーマの表現」「構成力」「音楽」「衣装」「動き」のバランス、相乗効果についての説明を行っている。

2.33 審査員

審査は、校内審査員と特別審査員によって行われる。校内審査員には、3年生全員および本校教職員(1・2年担任除く)があたるものとする。また本年度は、生徒たちの強い希望により、特別審査員を復活させることとした。特別審査員とは、通常校外で活動している舞踊を専門とした研究者、実践者、教育者であり、特に本校では、元本校保健体育科教官であり29年間ダンスコンクールに携わってこられた三浦良子先生ならびに、本学附属中学校保健体育科教官である宮本乙女先生(専門分野ダンス)を例年、特別審査員あるいは、特別審査員の廃止された年にはコメンテーターとして、必ずお招きしている。本年度の特別審査員(全6名)は、下記の通りである。

・元本校保健体育科教諭	三浦良子先生
・本学附属中学保健体育科教諭	宮本乙女先生
・I C U 高等学校保健体育科教諭（ダンス部顧問）	雨宮博美先生
・本学舞踊教育学科助手	相馬秀美先生
・本校保健体育科教諭（専門分野ダンス）	長谷川みゆき・池田三鈴

2.34 審査方法

- ・「グランプリ」 ……校内審査員は、最も良いと思うクラスを選ぶ。3年生、本校教職員は1人1点、特別審査員は1人5点で計算する。
- ・「衣装賞」 ……衣装についてよく工夫し、踊りの効果を高めたクラスを1クラス選ぶ。3年生、本校職員1人一点を合計した得点になる。
- ・「特別審査員賞」 ……特別審査員が、上記の5項目について各5点満点で審査し、クラス25点満点で点数をつける。また、評価（5項目）も記述する。（記述は審査の際の参考とし、得点にならない）

3. ダンスコンクールの実際 —創作活動から本番までの取り組み—

3.1 ダンス作品の指導・創作活動

3.1.1 体育科教官による指導

本校では、各学年の体育授業でダンスコンクールの創作、練習活動を行うことになっている。特に1年生の授業では、1学期、2学期を通してダンスの授業がカリキュラムとして組まれており、入学する4月からダンスコンクール本番の11月までの期間を見通したダンス授業のシラバスを組むことができる。従って、1年生は2学期に入ると即座に「ダンスコンクール」に向けてのオリエンテーションや講義を受け、体育授業での教員の進行チェックや、クラスメイトからの感触を手がかりに、デザイナーを中心に創作活動を開始することになる。一方、2年生ではダンスの授業がないため、本番前から逆算して五回分の授業を臨時的にダンスの授業とし、体育授業での創作、練習活動を行っている。2年生は昨年のダンスコンクールで学んだ内容や経験を生かしながら、早いクラスは夏休み頃から各クラスのデザイナーが構想を練り、クラスメイトに振付していく。

このように学年による状況の違いがあるが、本年度のように改革点がある場合の連絡などは、1年生にはダンスの授業時間に教員から、2年生にはダンスコンクール委員を通してという連携の形式をとって抜ける部分がないように補っている。

以下に示す(1)～(5)の説明文は、2学期ダンス授業の初回に生徒全員に配布し、説明に使用した資料とほぼ同じ内容のものである（本年度のダンスコンクールでの作品は資料③に示す）。

(1) 作品テーマ

作品のテーマは、昭和60年より例年、文化祭（輝鏡祭）開催の統一テーマを主テーマとして、それに関連した「サブテーマ」を決め、サブテーマに基づいた作品を発表することになっている（平成16年度の統一テーマは「煌（きらめき）」）。

サブテーマの選択に際しては、「自分たちがやってみたい世界、興味をもった事象、社会問題、動き、使ってみよう音楽をもとに自由に且つ独創的にイメージを膨らませ、意見を交換し合うこと」、「安易な選択や、既成のものを真似るなどは独創性のないものとして評価する」ということを前提とする。本年度の各クラスのサブテーマは(5)ダンス解説文の項で示す。

(2) 動きと構成

ダンス作品において、動きは作者や踊り手の表現を伝達する最も重要な要素である。サブテーマに基づいた創作では、テーマを表現するための新しい動きの発見を積み重ねていく。やってみたい動きや、好きな動きを選択し、あとでテーマに沿った解釈をつけてもよい。また、使用音楽からインスピレーションを得て創るのもよい。この場合もあとでテーマに沿って「解釈」をつけることでより動きの表現が深まる。構成は、約40名の人数を生かして図形的に作成する方法（マスゲーム）^{xiv}や群の対比（コントラスト）も使ってみる。ひとつの作品の中に「起承転結」や「序破急」などの流れを持たせることも大切である。

(3) 衣装

作品の衣装は、動きと相まってダンスの作品を視覚的に支える要素である。テーマを表現するのにふさわしい色、デザイン、布生地を選択について工夫がなされていること。例えば、自分の今の気持ちを色や素材で表してみる。この要領で作品にあった素材感や色をイメージし、世界観をつくっていく。斬新なコントラストを用いてもよい。作品の世界をより象徴付けるもの、動きの表現を引き立たせるもの、群を効果的に見せるなどの作品の一部として衣装をつくるのが望ましい。

(4) 使用音楽

音・音楽は、ダンスの作品を聴覚的に支え、作品の世界観をより具体的に印象づける要素のひとつである。よって、聴覚的にも観客を魅了するための「新しい」創意工夫の努力がされることが望ましい。自分たちの作品の世界を表すのに必要な、またドラマを語るナレーションのように作品の一部として音・音楽探しをしていこう。自然音や効果音、台詞、創作音などにも目を向け、独創的な世界をつくり出すことを目指す。

(5) ダンス解説文の作成

ダンス解説文とは、各クラスの作品の意図や見どころなどを、審査員や観客に分かりやすく伝える為に、プログラムに掲載するダンスの説明文である。踊りのパフォーマンスをより盛り上げるために、作品内容をクラス全員で共有するために、早めにダンス解説文を作成し、クラス全員に伝達すること。また、クラス全員でダンス解説文を通してサブテーマの内容を「より深く共有すること」つまり解釈することで、動きの表現性も統一され、深みを増していく。ダンス解説文は、鑑賞者がダンス作品の世界に瞑想するきっかけを与えるものであってほしい。たくさんの文字で語りすぎるとは、ダンス作品自体を空虚なものに演出してしまう。多くを語らず少しの言葉でダンスの世界を表す。ダンス解説文の作成者は、このような特質をふまえて、文学的な才能もここで存分に発揮していく。本年度、本番用プログラムに掲載された各クラスのサブテーマとダンス解説文を以下に示す（「 」内はサブテーマ）。

2年蘭組 「胡蝶の夢」

蝶になる夢…それはそれは楽しい夢でしたが段々自分が蝶なのか人間なのか混乱します。そして結局蝶も人も自分だと悟るのです。故事胡蝶の夢より作ったダンスをご堪能ください。

菊組 「青春」

甘酸っぱい輝かしい青春 かたく誓った親友との友情
しかし些細なすれ違いから生じる悩み・いさかい
そうして迎える大人への成長…何かを悟って…
私たちの煌くパワーを見せます！見せますコレこそ青春です！！

梅組 「茶梅春～survival～」

女たちは目覚めた 何を探し求めているのか
生き残るために戦い 時に魅惑的に舞う
—すべてはまだ見ぬ光をつかむために—

1年蘭組 「魔法の夜」

優雅に過ぎていく舞踏会の夜。しかし突然現れた魔女の手によって人々は機械や猛獣に変えられマスゲームやサーカスを華麗に展開させていく。

菊組 「猫 in the ペット bottle」

この世は腐っている。
でもそんな世の片隅に彼らがいる事をご存知だろうか？
僕らは忘れない。数万年前、ママから生まれてきた時の彼らの目の煌きを。

梅組 「超星（スーパースター）☆☆」

テーマは「超星」と書いてスーパースター。1U（1年梅組）一人一人が星（スター）または花形（スター）となって輝く最高のステージをお楽しみ下さい。

3.12 各クラスによる創作・練習活動（自治活動として）

各クラスのダンスデザイナー主導による創作・練習活動は、主に早朝や昼休み、放課後、休日などに行われる。特に本番一週間前を切ると、ダンスコンクール委員が、各クラスが平等になるように練習時間と場所を配分し、管理する。ここでは「平等性」を最も最優先させるため、「時間内に終わること」が原則であり、少しでもオーバーした場合は減点対象となる。このような各クラスによる創作・練習活動については、教員が管理するものではなく、あくまで自治会の活動として生徒同士で管理するものとして認識されている。

本年度の問題点としては、この自治活動に教員が指導を行ってもよいかということである。教員は、生徒からは質問が持ち込まれた場合、いつでも答えられるようにスタンバイすべきものであるが、コンクール形式ということで生徒たちの緊張感も高まっており、「平等性」を最優先する自治会の活動の中に、「聞いた者勝ち」的な不平等な要素が入る込むことに疑問も抱く生徒もいたようである。しかし、よりよい作品を創るためのサポートや指導を行い、レベルアップを図っていくべき時に、「平等性」を重視し過ぎるあまりに大切な機会を失うことは教育現場において本末転倒であることは言うまでもない。次年度は、ダンスコンクールにおける練習のあり方について、委員会でよりよい解決策が検討されることが望まれる。

3.2 ダンスコンクールにおける意識調査分析 —アンケート調査結果より—

（回答数…全生徒346人，教職員20人，計366人，回収率97％）

アンケート調査は、ダンスコンクール本番終了後、1週間以内の授業時間を用い、活動のまとめという意味合いも含めて実施した（アンケート用紙は資料④参照）。また文中に示す表1～12ならびに図1～11は、アンケート結果をもとに拙者が作成したものである。

3.21 出演者の意識調査結果および考察

ダンスコンクールに出演する1、2年生を対象に、以下(1)～(4)の本番に向けての創作・練習活動についての設問に対して「0」～「5」の段階に基づき自己評価を行ってもらった。尚、比較の為に「グランプリ」「特別審査員賞」を受賞したクラスを併記する。

(1) 取組み姿勢

表1 「取組み姿勢」(0～5段階 自己評価)

	「5」	「4」	「3」	「2」	「1」	「0」
1年生	38%	44%	16%	2%	0%	1%
2年生	29%	45%	19%	5%	0%	2%
出演者全員	33%	45%	17%	3%	0%	1%
「グランプリ」	61%	29%	8%	0%	0%	3%
「特別審査員賞」	31%	54%	13%	3%	0%	0%

(2) クラスへの協力体制

表2 「クラスへの協力体制」(0～5段階、自己評価)

	「5」	「4」	「3」	「2」	「1」	「0」
1年生	40%	35%	17%	3%	3%	1%
2年生	26%	42%	24%	4%	2%	2%
出演者全員	33%	39%	21%	4%	3%	1%
「グランプリ」	66%	24%	5%	3%	0%	3%
「特別審査員賞」	36%	51%	8%	5%	0%	0%

(3) 練習への参加度

表3 「練習への参加度」(0～5段階 5→90%以上、4→70%、3→50%)

	「5」	「4」	「3」	「2」	「1」	「0」
1年生	43%	40%	9%	7%	0%	1%
2年生	29%	45%	16%	7%	1%	2%
出演者全員	36%	42%	13%	7%	0%	1%
「グランプリ」	61%	34%	3%	0%	0%	3%
「特別審査員賞」	33%	49%	13%	3%	0%	3%

(4) 表現の追求度

表4 「表現の追求度」(0～5段階 自己評価)

	「5」	「4」	「3」	「2」	「1」	「0」
1年生	19%	35%	33%	9%	2%	2%
2年生	18%	30%	38%	9%	2%	3%
出演者全員	18%	33%	35%	9%	2%	3%
「グランプリ」	29%	47%	16%	5%	0%	3%
「特別審査員賞」	23%	31%	41%	0%	0%	5%

取組み姿勢、練習への参加度、クラスへの協力体制の項目において、「グランプリ」クラスの過半数が「5」をつける結果となっている。また2年生は全体的に自己評価の「5」をつけた人が少なく、「4」が半数弱となった。また「表現の追求度」の項目では、「グランプリ」クラスが辛うじて「5」47%となっているが、その他の平均は「3」～「4」の間にとどまっている。これは他の項目に比べ低い自己評価である。

(5) 踊ってみたい作品（本年度作品の中から1作品を選択）

表5 踊ってみたい作品

	2R『胡蝶の夢』	2U『サバイバル』	1K『猫』	1U『超星』	1R『魔法の夜』	2K『青春』	無回答
1年生	28%	23%	17%	14%	7%	4%	7%
2年生	38%	38%	10%	4%	4%	3%	2%
出演者全員	33%	31%	14%	9%	6%	3%	4%
「グランプリ」(1U)	47%	26%	11%	3%	3%	0%	11%
「特別審査員賞」(2R)	51%	36%	3%	3%	3%	3%	3%

生徒たちの志向性を探る為に、本年度の作品の中から「踊ってみたい作品」を質問したところ、2年生作品を選ぶ生徒が目立った。下級生にとって、今年の上級生作品は、表現性や作品の完成度の面でも学ぶべきものが多かったのだろうか。特に注目されるのは、「グランプリ」を受賞しているクラスの過半数が、「特別審査員賞」を受賞した上級生の作品を踊ってみたいと解答していることである。実質的に賞の設定において、「グランプリ」と「特別審査員賞」の優劣は明らかにしていないが、本年度の場合は、特別審査員、すなわち舞踊の専門家に評価された方が価値がある、と認識された可能性が見て取れた。またここでの結果は、来年度の作品傾向を左右する因子になりうると思われる。

3.22 本校におけるダンスコンクール開催に関する意識調査結果および考察

(1) 例年のダンスコンクールとの比較と改革の成果

ダンスコンクールを経験している2、3年生を対象に、例年のダンスコンクールと比較した「違い」について聞いたところ、「違う」73%、「同じ」13%、「分からない」11%という結果が得られた(図2)。

「昨年度のダンスと違う」と回答した人の学年別の傾向を見ると、3年生は「表情」、「表現性」、「作品の完成度」が順に挙げられるのに対し、2年生は「表現性」に続いて「作品の世界観」、「衣装」が大きく取り上げられている(図

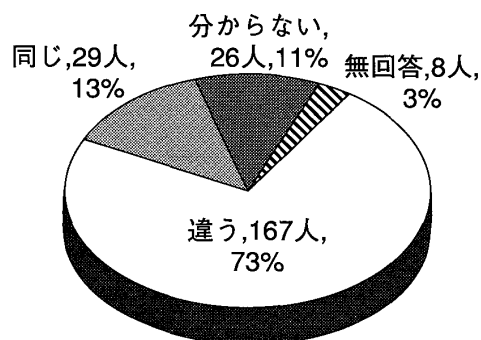


図2 昨年度と今年度のダンス比較 (2、3年生)

3)。この結果は、作品を「観る」側と「創り・踊る」側からの視点の違いともいえるが、特に「創り・踊る」側が、作品の世界観を向上させているにもかかわらず、「観る」側への反響が薄かったことが顕著である。「踊る」側は、その内部だけで作品の世界観に陶醉するにとどまらず、「観る」側に伝達できるように、作品への取り組み方、練習方法を考えていくことが今後の課題として考えられた。

◆「違う」と答えた人…どういう点で違うと思いますか？

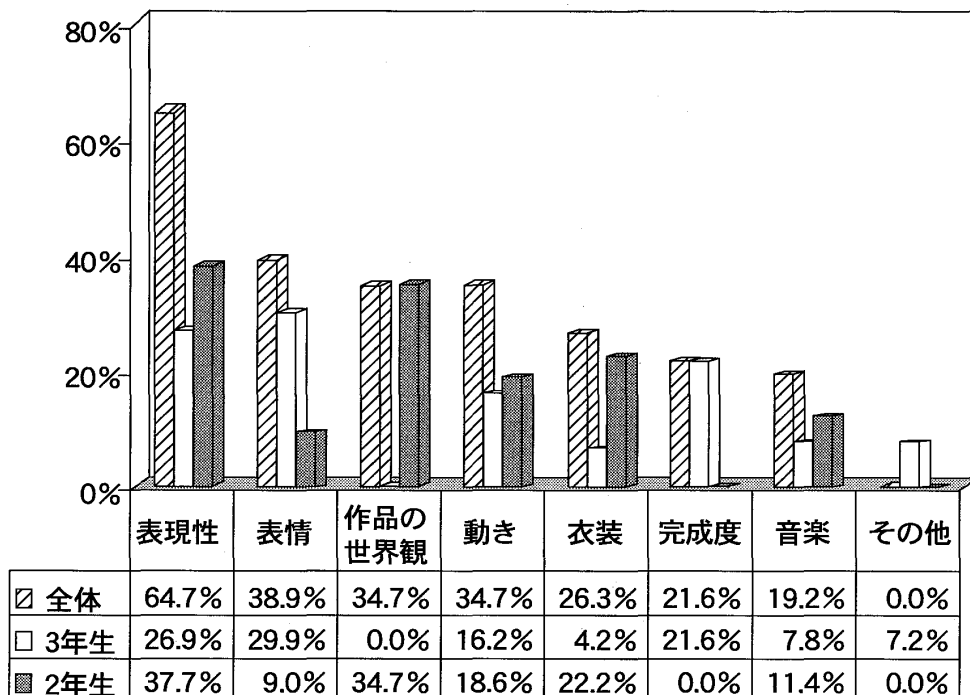


図3 「これまでのダンスと違う」と答えた人～何が違うか（複数回答）

また、「本年度のダンスコンクールで行われた改革の成果はどうか」という質問には、「成果を感じる」43%、「成果を感じない」52%という結果であり、特に出演者である2年生に「成果を感じない」生徒が多く見受けられた（図4）。

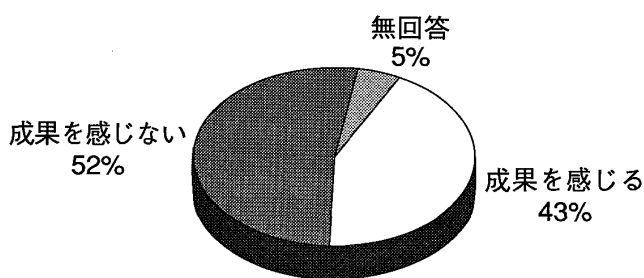


図4 改革の成果について（2，3年生）

それに比べて審査員として参加していた3年生では、約60%が「成果を感じる」と答えており、客観的にコンクールの様式が変化したことを理解していることが伺えた。このような誤差について考察すると、創作、練習、指導活動の合間に適宜行ったはずの出演者に対する改革点についての説明の不十分性や、突然の変更によって沸き起こった生徒間での認識の混乱、その他出演者ではない3年生には説明が行き届いていなかった点が挙げられる。

さらに表6は、改革の具体的な成果についての自由記述より抽出したキーワードの分類結果である。表6に示されるように、改革の具体的な成果に関しては、「作品に関するもの」が圧倒的に多く、「賞に

関するもの」が続いた。作品に関する改革の成果については、「体育祭のダンスとの違いが明確になった」、「ダンス＝お笑いな感覚があって正直疑問に思っていた」、「テーマ性が強く意識されていた」というコメントに集約される。現在、ほとんど違いの分からなくなっていた、体育祭でのマスゲームを中心とした「応援」とダンスコンクールの「ダンス」が、もともと違う特性であったことを確認する機会になったともいえる。さらに、「踊りの表現性が豊かになった」、「芸術的」、「完成度が高い」などのコメントも多く見られたことから、ダンスコンクールのダンスの特性は、何かを表現する芸術的なダンスとしての性質を持ち得たといえる。

また、賞に関する改革の成果は、「賞の設け方がよかった」、「審査基準がはっきりした」、「特別審査員が来たことで専門的な目で評価してもらえるすばらしい機会」などである。また、「衣装賞の増設によって衣装の質が向上した」というコメントも見られた。（成果の詳細に関する記述は表7参照）。今後は、改革点の良し悪しを正当に検討する為にも、改革点についての指導や伝達を丁寧に行い、従わせるにとどまらない改革のあり方を探ることが課題である。

表6 ダンスコンクール改革の具体的な成果について

(自由記述回答数/78より項目ごとに抽出、抽出数/116)

抽出分類名	抽出内容	抽出数	抽出合計	比率
①作品に関する	作品の傾向について	11	38	32.8%
	テーマ性について	7		
	完成度について	6		
	レベルの向上について	6		
	表現性について	8		
②賞に関する	賞の増設の成果、設け方	14	18	15.5%
	特別審査員賞の効果	2		
	衣装賞の効果	2		
③モチベーションに関する	やる気の向上	13	13	11.2%
④審査基準ほかハード面に関する	審査基準の明確化について	10	13	11.2%
	ハード面の向上と問題	3		
⑤特別審査員に関する	専門的な視点から評価される効果	12	13	11.2%
	その他	1		
⑥衣装に関する	衣装の工夫について	6	8	6.9%
	衣装予算について	2		
⑦結果発表に関する	結果発表の方法について	6	6	5.2%
⑧その他	開催時期や作品時間ほか	7	7	6.0%
合計		116	116	100%

表7 ダンスコンクール改革の具体的な成果に関する記述の詳細

(自由記述回答数/78から各項目ごとにコメントを抽出, 抽出数/116)

① 作品について (37)
■ 作品の傾向について (10)
・昨年までは「ダンス=お笑い」的な感覚があって正直疑問に思っていた。(2)
・クラスカラー、学年のカラーが良く出ていた。(2)
・個性が減った。もっと楽しんで欲しい。もっと自由に創って踊っていいと思う。(2)
・今までは楽しければいいというようなふざけた感じがあったが、今年は何のクラスも優勝を狙っている感じがあった。
・ダンスコンクールのダンスは(楽しく踊る)体育祭のダンスと違い本格的にテーマを追求するダンスというのが明確になった。
・特に、ダンスの内容が芸術的な方向に変わった。(戻った?)
・踊る人側の感情を重視した作品が多かった。
・方向性。
■ テーマ性について (7)
・テーマがしっかりしていた。(2)
・ダンスにテーマ性があり、「創作」という感じが出ていた。去年は体育祭のようなものが多かったが、今年は「演じる」ダンスで表現力などが全然違うように感じる。
・どう改革されたかは詳しく分からないが、どのクラスも作品のテーマがちゃんとあって良かった。
・ただのリズムダンスを踊るクラスがなくなり、それぞれのクラスが意味のあるダンスを踊り、クラスの特徴の出るダンスを踊るようになったと思う。
・衣装も動きもテーマがより強く意識されていると感じた。
・02年のときは、一貫したテーマを持った作品が少なかったが、今回はどのクラスも「自分たちが踊りたい」だけでなく「魅せたい」という意識が強くなったと思う。
■ 完成度について (6)
・全体的に完成度が高い。(3)
・作品の完成度が非常に高く、表現の幅が広がっていた
・完成度、表現力がずっとよくなった。本格的になった。
・ダンスとして完成し、動きもよかった。表現力アップ(伝えたいものが伝わってきた)。
■ レベルの向上について (6)
・全体的にレベルが高くなった気がする。(2)
・去年よりもずっと芸術性、ダンスの踊り、やる気、衣装の質がアップしていた。本当にハイレベルだった。
・昨年の2年生よりも今年の1、2年生の出来がよかった。
・昨年よりも大分ダンスらしくなった。
・例年以上にセンスが良い。
■ 表現性について (8)
・踊りが表現性を持っていた。(2)
・表情の豊かさに驚いた。(2)
・今までとは違ったもの、オーラが伝わってきました。
・芸術的な感じがした。ダンスの表現が良くなった。
・衣装や動きがクラスによって全然違ってより個性的な表現が出来るようになったのは生徒の工夫だけでなく、改革のおかげでもあるんじゃないかと感じた。
・ダンスを良く見てもらえるようになったと思う。

② 賞について (18)
■ 賞の増設の成果、設け方 (13)
・賞の設定の仕方がよかった。(5)
・入賞の部門が多くなった。(2)
・特別審査員、教師、生徒という3方向からの目があって、ダンスを作る側としてはどこを中心として作るかが大変だったが、逆にそれがダンスの質の向上につながったと思う。
・衣装賞、審査員賞などができ、前よりも励みになった点。
・賞がグランプリと衣装賞と特別審査員賞の3つになり、審査の対象が明確になった。
・賞の設け方(3年生の意見に関わらない賞があった点)
・入賞するクラスが少なくなる可能性が出来た。・衣装賞を作ったのはとてもよいと思う。
■ 衣装賞の効果 (2)
・衣装賞が出来たことで衣装のレベルアップにつながったと思う。
・衣装賞も出来て、より作品のテーマ性が追求できたのではないかと思う。
■ 特別審査員賞の効果 (2)
・賞に特別審査員賞が出来て、技術面から見た賞があって嬉しい!!3年生だけだとすごく不満だったから本当に嬉しい。
・なにより特別審査員賞ができたことが一番良かった。大衆受けする演出の他に専門の人が、動きの表現を見て審査するような項目は必要だと思います。
③ 審査基準について (13)
■ 審査基準の明確化について (10)
・審査基準がはっきりした。(4)
・審査項目が作品を作る側にも示された点。
・審査が良くなったと思う。特別審査員も設けられ、昨年よりも審査基準がしっかりしたためか審査が正当になった。
・審査基準がはっきりしていたからどこをどう工夫したらよいかははっきりしていた。
・審査基準が明確になり、それぞれのクラスが表現などを追及できたと思う。
・ちゃんと審査基準が決められ、審査員がどのように評価しているのかが分かりやすくなった。
・審査の項目がはっきりし、特別審査員による審査もあったのでより専門的で客観的な見方で結果が出る面があり、納得できる結果となりよかった。
■ ハード面の向上と問題 (3)
・改革の詳細について事前に伝わってればもっと良かったと思う。
・去年より進行がスムーズに思えた。・センターラインがテニスコートの線上になったことは助かりました。
④ 特別審査員について (13)
■ 専門的な視点から評価される効果 (12)
・特別審査員の方から専門家としての意見を聞いた点。(10)
・校内の単なる人気投票にとどまらず、専門的な目で評価していただける素晴らしい機会だったと思われました。そこが成果だったのではないかと思います。
・特別審査員が加わった事でやる気もアップしたし、3年生や先生方の評価とはまたちがった嬉しさがある。
■ その他 ・ICUの先生が来て全てがショウみたいだった。(1)

⑤ モチベーションについて (14)
■ やる気の向上 (14)
・モチベーションのアップ。(7)
・ダンスコンクールに緊張感が確実にあった。
・どのクラスもダンスコンクールらしいダンスをしていたと思う。本気でがんばっていた気がした!!
・2年生のダンスコンクールへの意気込みが昨年より強かった
・お茶高生らしい積極性が見られた点。
・練習をたくさんしたのだろうと思った。
・楽しそうに踊っていた。 ・観ていて楽しかった。
⑥ 衣装について (8)
■ 衣装の工夫について (6)
・衣装がどのクラスもしっかりとした仕上がりだった。(4)
・衣装の凝り方が違った。メイクまでしているクラスもあった。ダンスと合っていて見ていて楽しかった。
・無意味な衣装変えがなくなった。
■ 衣装予算について (2)
・衣装の予算アップ、衣装の予算が増えたので去年より凝った良い衣装が作れたと思う。
⑦ 結果発表、その他 (12)
■ 結果発表の方法について (5)
・評価は1位のクラスだけでなくせめて3位くらいまでしてほしい。(4)
・順位発表があっさりしていたのは良かったが、もう少し盛り上がりがあってもいいと思う。
・特別審査員賞があってもいいとは思いますが、審査員賞が総合の2位だと誤解しやすい。
■ その他 (7)
・2年前にダンスコンクール廃止案が出たときに散々話し合いをしたのに、今年は時期以外は戻っていた。2年前の時間は何だったんだ…。
・大人の手が入っている、日程が変わった、踊る範囲が狭くなった、時間の長さ、
・今年のゲスト大学生のダンスが興味深いものだった。

(以上、アンケート結果をもとに池田作成)

(2) 審査員の観点と傾向に関する分析 (対象：3年生，教職員)

校内審査員として作品を審査した3年生全員と教職員を対象に、「グランプリ作品」「衣装賞作品」について、審査の観点を聞いたところ次のような結果が得られた。

① 「グランプリ」作品の審査傾向

校内審査員を対象に、グランプリ作品の審査観点を調査したところ、3年生、教職員共に「作品の完成度」、「動き」、「表情」を中心にグランプリ作品を審査していることが明らかになった(表8、図5参照)。また、出演者の意識調査結果より、「グランプリ」クラスは、他のクラスに比べ「取組み姿勢」、「練習への参加度」、「クラスへの協力体制」の項目で「5」をつけた人が60%を超えていたが、彼らが

練習している様子やクラスの状況などは、3年生や教職員も本番までの校内で目にしたことだろう。すなわち、「グランプリ」という結果は、実質的に他のクラスよりも練習を行い、協力して取り組んだ姿勢への評価として、またその結果として現れた作品の完成度や動き・表情についての評価としてもとらえることができる。

表8 「グランプリ」作品として選ぶ観点（3年生、教職員）（複数回答）

学年	作品の完成度	動き	表情	音楽	衣装	その他
3年生	76人	62人	45人	23人	20人	10人
教職員	14人	7人	4人	2人	4人	0人
計	90人	69人	49人	25人	24人	10人
比率	67.7%	51.9%	36.8%	18.8%	18.0%	7.5%

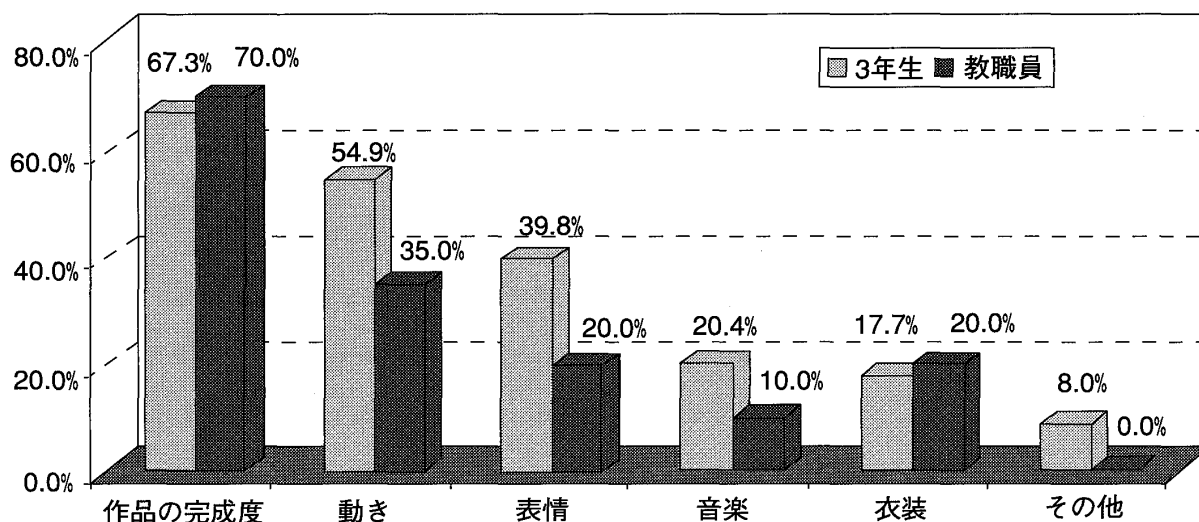


図5 「グランプリ」作品として選ぶ観点（複数回答）

② 「衣装賞」作品の審査傾向

校内審査員を対象に、「衣装賞」作品の審査観点を調査したところ、3年生は「デザイン性」、「イメージの一致」、「素材・色」の順で、教職員は「イメージの一致」、「素材」、「デザイン性」の順で多数となった（表9、図6参照）。結果からは、3年生が見栄えとしての「デザイン性」を重視しているのに対し、教職員はより作品の「イメージとの一致」を審査の観点としていることが明らかである。これは、教職員がよりダンス作品のイメージを重視し、素材や色が選ばれているかという点を審査していることを示している。

表9 「衣装賞」作品として選ぶ観点（複数回答）

	デザイン性	イメージの一致	素材	色	衣装変え	その他
3年生	78人	71人	32人	32人	25人	2人
教職員	5人	8人	7人	4人	1人	1人
計	83人	79人	39人	36人	26人	3人
比率	62.4%	59.4%	29.3%	27.1%	19.5%	2.3%

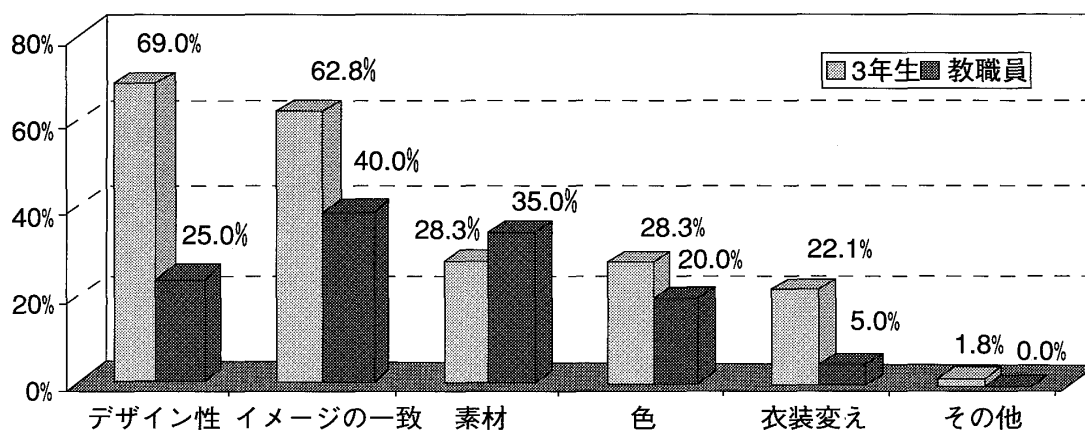


図6 「衣装賞」作品として選ぶ観点（複数回答）

(3) 特別審査員について

全校生徒および教職員を対象に、特別審査員の招聘について調査したところ、全校生徒においては「賛成」64%、「どちらでもよい」32%、「反対」1%という結果が得られた（図7）。また、教職員では「賛成」55%、「どちらでもよい」40%、「無回答」5%となっている（図8）。全校生徒、教職員共に「賛成」派は過半数を上回っているが、「どちらでもよい」と回答している人が全校生徒で3割強、教職員で4割を占めていることがわかった。

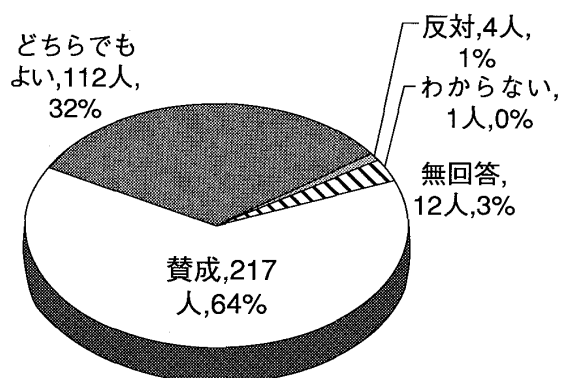


図7 特別審査員の設定について（全学年）

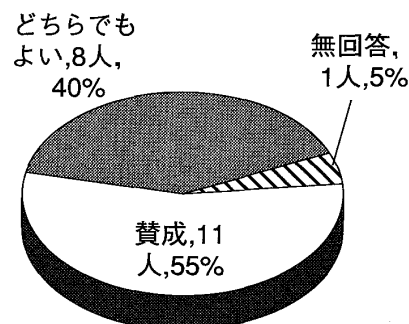


図8 特別審査員の設定について（教職員）

資料⑤は、本年度の特別審査員が審査の際に走り書きしたメモをまとめたものである。本年度の特別審査員の観点を示す資料として示す。またこの内容は、ダンスコンクール終了後、各クラスに配布し作

品の反省、ダンスコンクールを通じた学習のまとめに使用した（資料⑤—1～6参照）。

さらに図9に示す通り、特別審査員の希望分野について調査したところ、生徒の希望は「高校の顧問」、「芸術家」が過半数以上、教職員では「高校の顧問」が60%と圧倒的に多く、「芸術家」、「大学の研究者」が25%と続いた。中でも生徒の希望において「芸術家」の希望者が「高校の顧問」と同様に突出し過半数以上になったことは興味深い結果である。このような結果からは、「芸術家に認められるようなダンス作品」をつくり、評価されてみたいという本物志向の願望が生徒達の中にあることがわかる。しかし、専門家に審査・評価をしてもらうためには、それに見合った練習を行い、作品を洗練させ、緊張感を高めていかねばならない。現状として、これ以上の練習量の確保は他の行事とのバランスや予定の調整上難しい部分があり、得策を考えるのは至難の技である。また現時点では、生徒自身がその状況をふまえた上で「芸術家」を希望したとは考えにくい。このあたりを考慮しつつ、本年度のダンスコンクールにおいて、特別審査員の存在が生徒たちの意欲を促進させ、作品への前進的な効果を与えた実績を踏まえて、今後検討していく価値はあると考えられる。

本年度の調査結果からも明らかであるように、審査の設定、特別審査員の導入は、ダンスコンクール自体の意義を問いかけるものでもあり、行事の方向性や洗練度を決定付ける要因となっている。審査員については、学校としての行事の方向性を見据えつつ、生徒たちの理想をいかに現実のものとしていけるかを含めて考えなければならない。そのためには、各年度の生徒たちの傾向や志を喚起させ、力を引き出す起爆剤として適切か、を慎重に論議し審査方針を固めることである。そして生徒と教員が、向かうべき審査、すなわち成果の方向性を確認し合い、進めていくことが必要不可欠である。

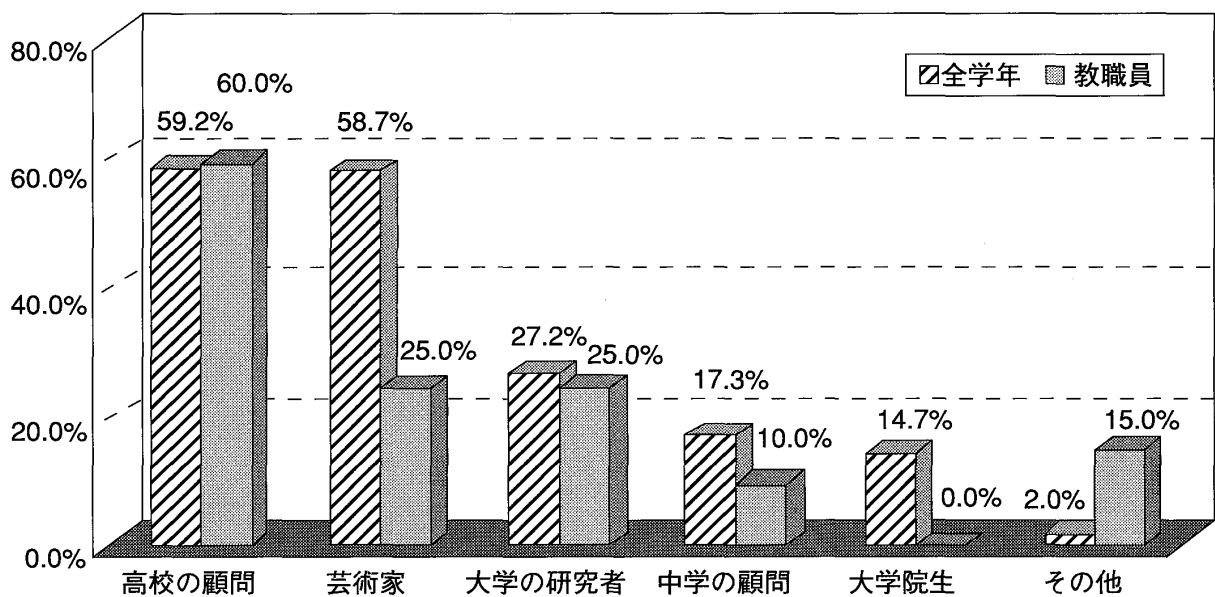


図9 特別審査員の希望（複数回答）

(4) 今後のダンスコンクール開催について

全校生徒および教職員を対象に、本年度のダンスコンクールを体験して、今後この行事が開催されることについて調査したところ、生徒、教職員共に70%弱が「賛成」、25%前後の人が「どちらでもよい」と解答した。表10は、学年別の傾向を示すために併記したものであるが、特に2年生が開催に積極的な姿勢を見せていることがわかる。ついで今年には校内審査員の役割を務め3回目のダンスコンクールとなる3年生では63%が「賛成」と解答した。また学校行事を方向づけ、生徒たちを導く立場にある教職員では、「賛成」65%、「どちらでもよい」25%、「反対」、「無回答」はそれぞれ5%となった。本校の教職員の中には、数十年にわたりダンスコンクールを見守り続けてきた教員も含まれている。その意味では「賛成」には、「伝統行事」としての意味合い、ダンスコンクールを通して生徒たちが得ている何らかの成果の確信などが含まれている（詳細は資料⑥を参照）。

表10 ダンスコンクールの開催について（全学年）

	賛成	どちらでもよい	反対	無回答
1年生	56.0%	30.2%	12.9%	0.9%
2年生	73.5%	18.8%	6.8%	0.9%
3年生	63.2%	17.3%	1.5%	3.0%
教職員	65.0%	25.0%	5.0%	5.0%
全学年	67.9%	23.1%	7.2%	1.7%

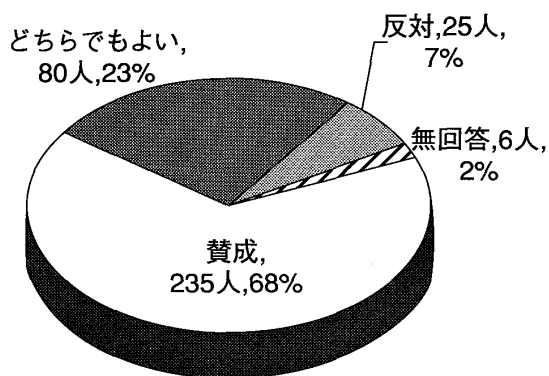


図10 ダンスコンクールの開催について（全学年）

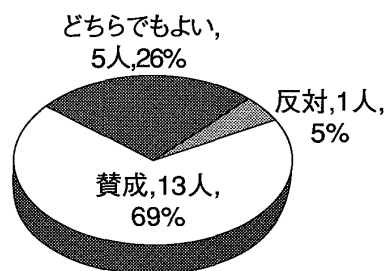


図11 ダンスコンクールの開催について（教職員）

(5) 開催意義

(4)で明らかになった開催に関する賛否をふまえ、なぜ今までダンスコンクールが開催され続けてきたのかを探る為に、現在の生徒たちの考える「開催意義」を明らかにすることを試みた。表11は、ダンスコンクールの開催意義について「賛成」と回答した235人のうち、101人による自由記述内容を、項目ごとのキーワードのよってふるいにかけ分類したものである。結果は、「クラス単位の行事として」の意義を述べたものが43.5%で最も多く、続いて「ダンスを学ぶ、表現力が身につく」が19.5%、「経験」が13%、「伝統行事」、「ダンスを楽しむ」が8.4%と続いた。記述の詳細については、表12に示す。

表11 コンクール開催意義に関する記述の分類

(自由記述回答数/101より項目ごとに抽出、抽出数/154)

項目 (キーワード)	抽出数	比率
①クラス単位の行事として (団結・クラス)	67	43.5%
②ダンスを学ぶ、表現力が身につく (表現・豊かさ・はじめて・ダンス嫌い・機会)	30	19.5%
③経験として (経験・達成感)	20	13.0%
④伝統行事の一つとして (伝統・歴史)	13	8.4%
⑤ダンスを楽しむ (楽しい・面白い)	13	8.4%
⑥体育祭とは違う種類の行事として (体育祭)	11	7.1%
合計	154	100%

表12 ダンスコンクール開催の意義に関する記述の詳細 (自由記述回答数/101より要素を抽出)

① クラス単位の行事として キーワード:「団結」「クラス」	67
・クラスの団結力が強まる (49)	
・ダンスコンクールは体育祭、文化祭を経て、クラスの団結を最高に高める行事だと思います。だからこそ、この行事は無くすべきではないと思います。	
・昨年も今年も実感したことだが、1年間でクラスが一番結束する。一人一人の力が必要だし、全体でまとまらなくてはならないから。	
・クラスのメンバーが協力してひとつの作品を作り上げるという面でとても重要な行事だと思う。	
・最初は嫌だと思っけていても、実際やってみるとクラスの団結力が高まるし、夢中になって踊ると楽しい。	
・クラス単位の行事が必要 (15)	
・クラスが団結する行事がなくなるのはもったいないです。多くの人と協力して必死に何かを成し遂げるといふ経験は学生時代にしか出来ないのだから、これからも続けていって欲しい。	
・クラスみんなでダンスを創り上げるのはダンスコンクールが最後だから。(1年生はクラス替えになるし、2年生は3年になると忙しくなる。)	
・クラスがまとまってするものが必要。こういった機会は高校まで。	
・クラスで一つのを創り上げるというのは体育祭では出来ないし、文化祭のクラス有志もちょっと違う場だと思うので、必要だと思います。	
・少人数ならではの多能性があるところがよい。	
・友達同士のコミュニケーションが深まる (3)	
・ダンスの練習を通して友達同士のコミュニケーションが深まる	

② ダンスを学ぶ、表現力が身につく キーワード：「表現」「豊かさ」「はじめて」「ダンス嫌い」「機会」	30
・身体で表現することが学べる。(5)	
・自分を表現できる一つの場。(3)	
・自由にのびのびとした表現力を養う。	
・他の人が作ったものを見たり、他の人の踊り方を見るのが勉強になる。	
・ダンスという表現は表現の幅が広い。	
・ダンスによってそれぞれの個性が現れる。	
・ダンスの楽しさを知るだけでなく、ダンスで何かを表現することができる。身体で表現する楽しさや力はある悪いものではないと思うし、それによって感性も磨かれると思うから	
・身体で動きを表現することの喜び、楽しさを皆平等に得ることが出来る機会だから。体の動きで表現する楽しさが分かれば、人生がきっと豊かになるから。	
・踊ることは自分で感じたことを表現することで、それは表現力と共に感性も同時に育める大切な機会になっていると思う。	
・お互いの才能や表現を認め合える機会が出来るのは大変良いことだと思う。普段の学校生活では見られないような一面が多く生徒たちに見つけられるからです。	
・ダンスの面白さを知る。	
・ダンスを経験することはいいことだと思う。	
・ダンスは普段やる機会がないから踊ってみたい。	
・ダンスをみんなで一つの形にするというのはこういう機会でなければ出来ないと思う。	
・ダンスを見る機会はあまりないから貴重だと思う。	
・他のクラスの人たちや保護者に一人一人を見(魅)せる良い機会。(個人的にダンスかなり好きだから)	
・私は外部生で中学まではダンスに全く縁がなくてももしお茶高に入らなかったら、ダンスコンクールがなかったらダンスの楽しさを知らずにいたと思います。	
・ダンスが嫌な人も楽しさを見つけられるチャンスがあるから。	
・本格的なダンスを経験したのは高校のダンスコンクールが始めてだったので、このような経験が出来てよかったと思うから。	
・クラス内で始めはダンスが嫌いだと言っていたが、だんだん楽しくなってきたと言ってくれた人が結構いた！！	
・オリジナルの創作ダンスを作るのはとてもよいことだと思う。	

④ 伝統行事の一つとして キーワード：「伝統」「歴史」	13
・芸術的であり、表現力の豊かで個性のあるダンスコンクールであるのならぜひ見たい。お茶高で唯一生徒の芸術性をみることの出来る行事だと思うので。	
・今まで50年以上続いてきたという伝統がある。他では経験できないことだ。	
・私たちの学校の伝統だから。	
・元々伝統的な行事なので、なくなってしまうのは悲しい。今までやってこれたからやっていけると思う。	
・伝統行事であり、「輝鏡祭」とは、「運動」「文化」「芸術表現」の3要素は欠かせないと思う。いくら革新とはいえ、守るべきは守るべきと思う。	
・伝統をなくしてしまうのは良くない。	
・長年続いてきた大切な行事ではあるが、クラス単位でやるには厳しいが、なくせとはいえない。	
・ダンスコンクールは55回目ということで輝鏡祭の中でも歴史がある行事なので是非続けて欲しい。	
・伝統的に続いてきた歴史あるものを簡単に辞める事は良くないと思う。止めた場合、お茶高のレベルが下がったかのような印象を受けるし、1、2年生で余裕もあるのだからやるべきと思う。	
・戦後すぐの時代、女性が激しく動いたり、足を上げたりすることがあまり良くないとされていた時代に始めた行事であり、伝統がある。それを無くしてしまうのはあまりに勝手だと思う。	
・長い歴史がある。	
・お茶高生はやる義務がある。	
・お茶高の伝統、発祥の意義を伝えていかなければ意義がない。私たちのときはなかったので忘れず伝えて欲しい。	
・自分たちの代で止めてしまうのはいやだ。	
⑤ ダンスを楽しむ キーワード：「楽しい」「面白い」	13
・ダンスは、見ている側も踊る側も楽しむことが出来るので、やっていて面白い。(9)	
・正直、朝練とかきついけど、ダンスが好きで私としては、自身が踊るのは楽しい。	
・話し合いながら次第にストーリーや振りが仕上がっていくのが楽しい。	
・ダンスが嫌いだったけれど、ダンスコンクール以来好きになったので、他の人にもダンスの楽しさを知って欲しい。	
・練習や衣装作りが楽しい。	

⑥ 体育祭の応援とは違う種類の行事として キーワード：「体育祭」	11
・体育祭の応援はどうしても「応援」であって、ダンスとは違う。	
・体育祭のポップなダンスとは違うものが創れるので良いと思う。	
・体育祭のダンスもあるし、そんなにダンスばかりしなくても良いと思うが、ダンスコンクールのダンスはまた違うものなのでどちらともいえない。	
・体育祭の応援ダンスとはまた違った表現の面白さが分かる。	
・体育祭のダンスのように、ただ楽しむだけでなく一つの作品についてクラス全員が理解してその気持ちを身体で表現する貴重な機会だと思うから。	
・体育祭ダンスとは違う「表現」するダンスを一度は経験した方が良いと思う。 高校の今しか出来ないことだし、見ている方も楽しめる。	
・体育祭のダンスと違い、クラスという多すぎず少なすぎない人数でダンス表現を出来るダンスを作る機会というのは貴重だと思う。	
・体育祭のダンスとは違って、みんながダンスに集中して取り組むので、雰囲気もダンスの内容自体も良い。	
・体育祭と違って、1年生だけの力を試す場としても貴重。	
・入学当初から何故ダンスコンクールが輝鏡祭と呼ばれながらも比重が低いのか不思議だった。このダンスコンクールは、1、2年生が対等に参加できる。	
・体育祭とは違った本格的なダンスを自分たちで作って踊るということは、他でダンスを習って踊ることよりもずっと有意義だと思う。	

(以上、アンケート結果をもとに池田作成)

表12の詳細な記述を見ていくと、「クラス単位ですること」、「団結すること」の必要性、「表現力を磨き」「自主性を発揮する」ことによる個人の成長、達成感や充実感について述べられた意見が多数である。つまり、ダンスコンクールの他の行事にはない特質、すなわち「クラス単位」、「ダンス作品」であるという部分を取り上げる意見が多く、また体育祭とは異質のものが得られる体験を重要視していることがわかる。教材が「ダンス」である以上、運動的、競技的な性質は持ちあわせたとしても、その主眼はあくまで表現し、観るものに訴えかけるコードとしての性質である。生徒たちの意見をみても、体育祭でのチアリーディングに類似したショウ的なダンスにとどまらず、作品の世界を掘り下げ、仲間と共有しながら取り組み、身体と身体、感性と感性が非日常の世界に共鳴しあう体験が、他の教材では得がたいものであることを証明している。このような結果から、ダンスコンクールの開催意義は、「ダンス」という教材を通して、クラス単位での関係を深め、様々な表現のボキャブラリーを体験し、自らの身体の言葉として還元していくことの面白さにあり、その魅力が長年伝統として大切に引き継がれてきた所以と考えられた。

3.23 今後のダンスコンクール開催に向けての方向性

では、これまでの分析結果をもとに、今後のダンスコンクール開催に向けて、方向性を定めるならば、どのように考察できるだろうか。分析結果をまとめると次のようになる。

まず、ダンスコンクールにおいて伝統として引き継がれてきたものの原形は、昭和初期の学校教育における「表現」としてのダンスであった。すなわちダンスは踊らされるものではなく、自ら創り、踊

り、観るという意味での「ダンス」であること。そして、審査の設定、特別審査員の導入は、「審査基準の明確化」と「賞の設定」など正当な評価を導き、その評価に向かって練習過程を辿るという意味で、ダンスコンクール自体の本質にかかわる問題であること。特に審査員については、学校としての行事の方向性を見据えつつ、生徒たちの理想をいかに現実のものとしていけるかを考えていく必要があり、各年度の生徒たちと共に慎重に論議し審査方針を確認しあうことが重要であること。最後に、ダンスコンクールの実際からは、今の生徒たちはダンスコンクールを通して予想以上のものを身体と知性と感性のもとで体験していることが明らかであり、開催意義への考察からは、「ダンス」という教材を通して、クラス単位での関係を深め、様々な表現のポキャブラリーを体験し、自らの身体の言葉として還元しているという実態が明らかであったこと。以上、分析結果のまとめから、今後のダンスコンクール開催の方向性について検討すると、大きく三つの「場」としての方向性を見出すことができるのではないだろうか。

第一に、ダンスコンクールは、長い歴史の中で永久保存された伝統行事という概念に縛られず、クラスを単位とした個々人の貴重な「自己教育の場」としての方向性。第二に、ダンスという教材の力を存分に発揮し、ダンスを学ぶことで、自己表現の方法と出会い、表現力を養い、コンクールは「今」を生きる生徒達の「表現の場」であるという方向性。第三に、ダンスコンクールでは、運動会や体育的なマゲーム運動の枠を超えて、表現性や作品の世界観を高められる可能性を持つ「芸術性追求の場」としての方向性である。

4. 結語 —ダンスコンクールに期待されるもの—

半世紀前とはうって変わった受験事情の最中に、ダンスコンクールに向けてダンスを創り、発表し、評価されるための時間をとることは並大抵のことではない。そのような状況の中で、形式だけがそこに存在し、共有されるべき精神が抜け落ちた伝統行事の存続は難しい。今後のダンスコンクールの開催については、68%の生徒が「賛成」、[どちらでもよい] 23%、「反対」7%という結果を得ているように、現状は手放しに開催をよしとしていない。しかしなぜ、55回の年月を経てダンスコンクールは続けられてきたのか。本稿では、その開催意義を探るためにアンケート調査から生徒たちの意見を探り、その傾向を明らかにしてきた。

その結果、今後のダンスコンクールが向かうべき方向性を次のように見出すことができた。まずは第一に、ダンスコンクールは、長い歴史の中で永久保存された伝統行事という概念のみに縛られず、クラスを単位とした個々人の貴重な「自己教育の場」としての方向性を再確認することである。ダンス学習を通じた総合的な学びとは、クラス単位で活動を通しての友人との関係を深めていくことであり、ダンスを通して様々な動きの表現のポキャブラリーを体験し、自らの身体の言葉として還元していくことである。このような学びは、多感な高校時代において、他の行事では体験できない貴重なものとなっているのである。

第二に、ダンスという教材の力を存分に発揮し、ダンスを学ぶことで、自己表現の方法と出会い、表現力を養い、コンクールは「今」を生きる生徒達の「表現の場」として解放されることが期待される。ダンスコンクールを経て得られる自らのアイデアを具現化し、「人の前で表現する経験」は、自己を触発するイベントとして期待されるであろう。人のものではなく自分のオリジナルな表現を発見し、人と共有し、洗練させていくことは、ダンスという枠を超えて自らを開拓し新たな自分と出会うきっかけとなっていくものである。そして第三には、特別審査員の生徒からの希望に「芸術家」が過半数を超えていることから明らかであるように、表現の経験をさらに洗練させていく「芸術性追求の場」としての期待である。その理想を実現させる為にはダンスに関する専門的なスキルの向上と、練習時間の確保、教員による指導内容の検討を重ねていく必要性が考えられる。そして、これらの方向性に基づいたダンスコンクールを実現させ、向上を図るためには、常にハード面を充実させることが課題である。特に審査の基準、賞の設定については、生徒の動機付け誘発する大切な基盤になるものとして、より専門的な視点を導入するなどして、改善を重ねていくことが必要であると考えられた。

本校でダンスコンクールが開催されてから本年度で55回目。「伝統行事」と化したその行事の開催意義の真偽を探るうちに、現実としての「今」の実態を突きつけられた。そしてその中で、存続理由のひとつである「伝統行事であるから」という抽象的な表現をより具体的に現代に伝えるべきことばや精神が必要であり、それらを引き継いでいく必要性を切実に感じさせられた。「伝統」という言葉だけでは説明されない行事は、本当の伝統を引き継ぐものではない。生徒から生徒へ、教員から教員へ、身体から身体へ、心から心へ。伝統行事というならば、その方法論、理論のみならず、その精神を受け継いでいくことが最重要である。そしてそれらをふまえた上で、何よりも「今」を生きる生徒たちの状況を向上させるための指導法や、企画のあり方について再検討しケーススタディを重ねていくことが今後の研究課題であると考えられる。

*本稿は、一昨年度に本校においてダンスコンクールを廃止しようという生徒有志の運動を受け、近年低迷気味であった伝統のダンスコンクールをもう一度その本質から見直し、とらえ直すために取り組んだ研究である。本稿作成にあたり、またコンクールの開催に向けて貴重なアドバイス下さいました元本校教官の三浦良子先生をはじめ、お茶の水女子大学附属高等学校教官の皆様ここに併せて深く感謝の意を表します。

注

- i 三浦良子「校内ダンスコンクールについての報告(3)－49回の軌跡－」、お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要44号、1998年、p.110
- ii 三浦、前掲書、p.107
- iii 生徒による「ダンスコンクール廃止」運動について
平成12年度の2年生により打ち出されたこの原案は、ダンスコンクールの開催意義を問い、ダンス

コンクールを中止したいという有志によって作成されたものである。結果的に、ダンスコンクールは開催に至ったが当時の生徒たちによるダンスコンクール閉会に向けての運動は、全校生徒に行き渡り、その意見書やアンケート結果も残されている。また、さらに時代をさかのぼると、昭和62年と平成2年にもダンスコンクールのあり方を見直して欲しいという意見が有志生徒により出されたとある(会誌『お茶の水』創立八十周年記念号、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校、1962年)。

- iv 伊東明(代表)『日本スポーツ百年の歩み』、日本体育学会体育史専門分會、ベースボールマガジン社、1967年、p.272
- v 三浦良子「校内ダンスコンクール—その教育的意義と歴史的変遷—」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要23号、1977年、p.142
- vi 『学校体育指導要領』高等学校、保健体育「ダンス」の項目より抜粋、文部省、1947年
- vii 山中茂子「学校ダンスの在り方」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要2号、1956年、p.84
- viii 山中、前掲書、p.84
- ix 『高等学校学習指導要領』、保健体育「ダンス」の項目より抜粋、文部科学省、1999年
- x 『高等学校学習指導要領』、保健体育「内容の取り扱い」の項目より抜粋、文部科学省、1999年
- xi 山中茂子「運動会のダンス」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要5号、1959年、p.42
- xii 三浦、前掲書、p.140
- xiii 三浦良子「校内ダンスコンクールについての報告(3)—49回の軌跡—」、お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要44号、1998年、p.113
- xiv マスゲーム構成上の条件について：マスゲーム校正の要点として、個人個人の美しさよりも全体の美に主眼を傾けたい。広い運動場に少人数のダンスでは、その空間を占める割合が釣り合わず、自然に運動場に応じた多数の人数が必要となってくる。そして個々の動きが簡単でそれが非常に美しくない時であっても、全体となるとその簡単な動きが非常に美しく見える場合がある。これは多数による集団の美しさがほかならぬのであって、マスゲームはこの集団の美しさ十分発揮できるように創られるのが構成上の一つの条件となる(山中茂子「運動会のダンス」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要5号、1959年、p.41より抜粋)。

[引用・参考文献]

- ・上沼八郎『近代日本女子体育史』、不昧堂出版、1972年
- ・上沼八郎『体育スポーツの一世紀』、体育普及委員会、1974年
- ・岸野雄三『体育の文化史』、不昧堂出版、1980年
- ・成田十次郎編『体育・スポーツの歴史』、日本体育社、1978年
- ・成田十次郎編『スポーツと教育の歴史』、不昧堂出版、1983年
- ・片岡康子編『舞踊学講義』、大修館書店、1991年

- 三浦良子「校内ダンスコンクール—その教育的意義と歴史の変遷—」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要23号、1977年、pp.139-164.
- 三浦良子「校内ダンスコンクールを考える—本校の実践例より—」、お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要23号、1987年、pp.57-82.
- 三浦良子「校内ダンスコンクールについての報告(3)—49回の軌跡—」、お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要44号、1998年、pp.107-155.
- 山中茂子「学校ダンスの在り方」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要2号、1956年、pp.81-89.
- 山中茂子「運動会のダンス」、お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校教育研究会紀要5号、1959年、pp.40-48. ほか

1 じゃん梅 <7> DANCE!

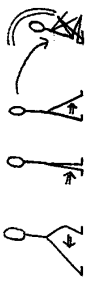
You can't stop the beat ♪ 右足0 左足1

●女性の歌が盛り上がる。た所から。

① フロスステップ (8x1)
<右方向> (4x1) <左方向> (4x1)

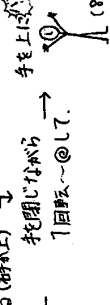


② 左足を①と出して戻して→右足を出して



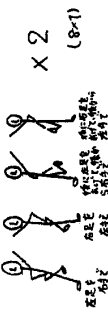
両足を回しながらしゃがむ

➡ 右足を1歩前に出して同時に両手を広げる(斜上) ↓



③ ●移動 ●～サビ～

④ サビ1 (8x4)

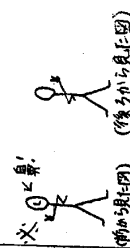


➡ 手もワガ、腰も動かしながらしゃがむ (8x1)
肩動かし、手もワガ、腰も動かしながらしゃがむ (8x1)

(膝、ふくれ)
(足を固定しながら)
動きに合わせてかかとを動かす(2)

なくさないで他のワグムには見せるははがー!

♪ 鼻!



(仰ぐ顔) (後ろから見止図)

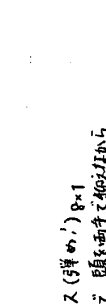
⑤ "Yeah~!" と同時に右足を回しながワグム立つ (8x1)



➡ 手も腰に下げながら、右→左→右→左と下がる (8x1)



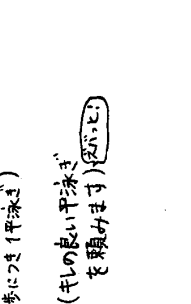
⑥ 審査員 (3年生+先生) に猛アピール (8x3)
"WOW WOW WOW..." と流れるのて



手は下。

首を動かす 右→左 (この格好で)

➡ "No, we can't!" "Yes, you can!" "Yes, you can!" "Yes, you can!"



文面で説明するの難しいので、意味不明な部分はダンス係に聞いて下さい。

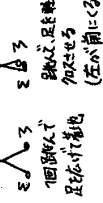
☆ 組指七優勝 ☆

⑤ サビ2 (8x4)



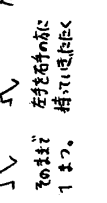
➡ 手をのたまいで、足は踏むように戻す (右足を軸に)

時針回りに1回転 (→時針の逆方向)



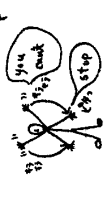
➡ 手をのたまいで、足は踏むように戻す (右足を軸に)

時針回りに1回転 (→時針の逆方向)

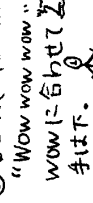


➡ 手をのたまいで、足は踏むように戻す (右足を軸に)

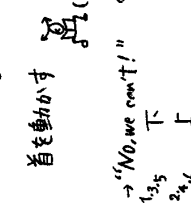
時針回りに1回転 (→時針の逆方向)



➡ 手をのたまいで、足は踏むように戻す (右足を軸に)



➡ 手をのたまいで、足は踏むように戻す (右足を軸に)



第55回校内ダンスコンクールの様子（平成16年度）
（開催日：2004年11月7日（火）、場所：本校グラウンド）

マスゲームの活用

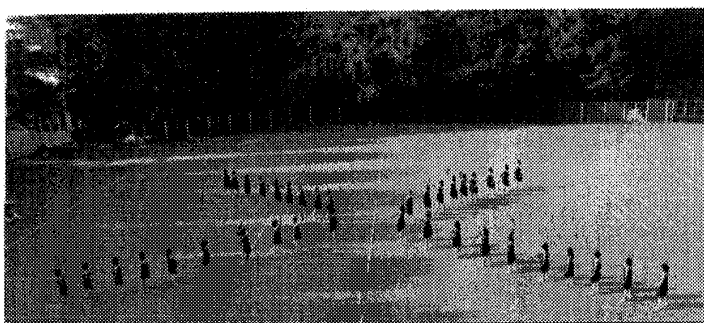


写真1

↑ 2U作品『茶梅春』より ↓

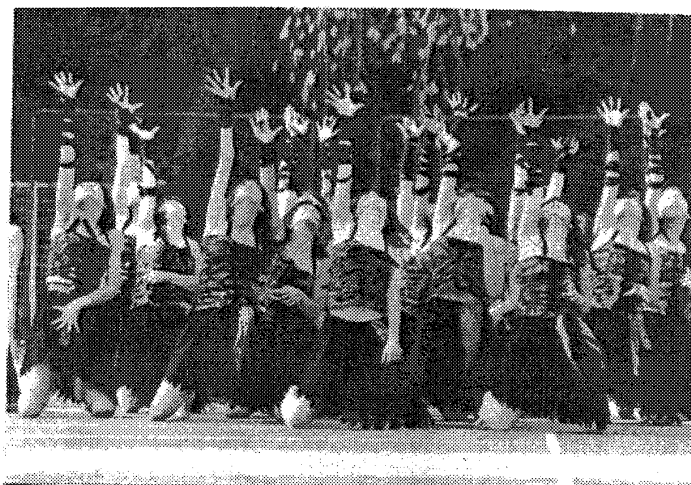


写真2



写真3 1U作品『超星』☆☆より

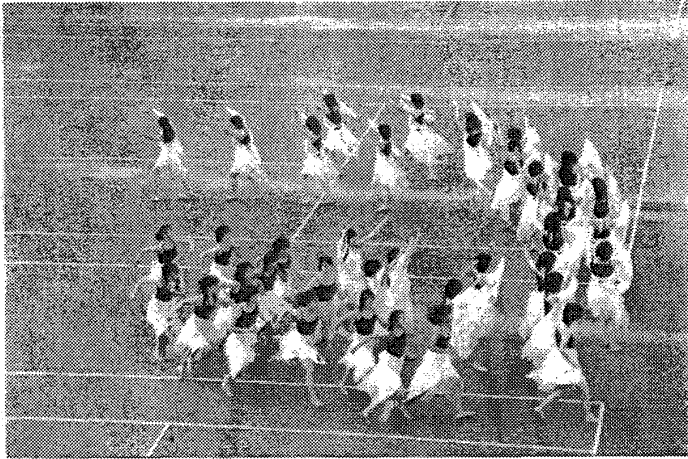


写真4

↑ 2 R 作品『胡蝶の夢』より ↓

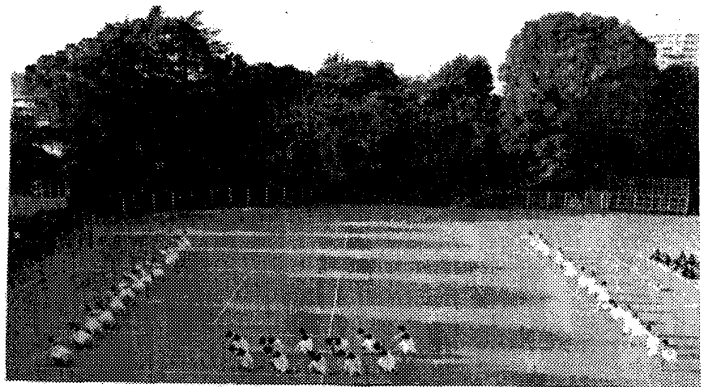


写真5

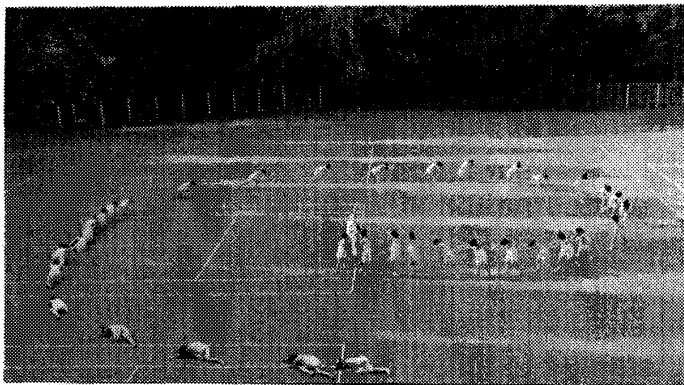


写真6

↑ 2 K 作品『青春』より
→

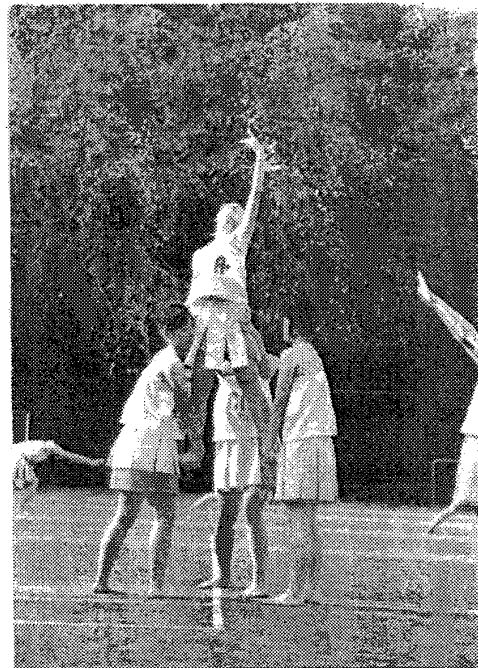


写真7 (以上、写真提供; 飯塚写真店)

1、2年生用

※このアンケート・レポートはダンスコンクールのまともとして評価しますので、「必ず」提出すること。

平成16年度 第55回校内ダンスコンクール アンケート・レポート

注：自由記述スペースが足りない場合は、裏面を使用。

＜はじめに＞

- 今年度のダンスコンクールでの係について。(踊るだけの人は「なし」を選択)。
 ダンスデザイナー 衣装 音楽 なし その他
- ★(2年生のみ記入) 昨年度のダンスコンクールの係について。
 ダンスデザイナー 衣装 音楽 なし その他

以下の■1～4の項目について「0～5点」で自己評価しなさい。

- 1 自分の取り組みの姿勢はどうでしたか？
 0 1 2 3 4 5
 ● ● ● ● ●
- 2 自分のクラスへの協力体制
 ● ● ● ● ●
- 3 練習への参加度 (1→最後だけ、2→30%、3→50%、4→70%、5→90%以上)
 ● ● ● ● ●
- 4 踊りの表現への追求度
 ● ● ● ● ●
- 5 自分のクラスの良かったところについて (自由記述)

■6 自分のクラスの悪かったところについて (自由記述)

■7 今年の作品の中で、踊ってみたい、作ってみたいダンスは？(自分のクラスも可)

- ①1U 『超星』
- ②1K 『猫』
- ③1R 『魔法の夜』
- ④2U 『茶権春～サバイバル』
- ⑤2K 『青春』
- ⑥2R 『胡蝶の夢』

★8 (2年生のみ記入) 昨年との比較

- 8.1 全体的に見て昨年度と今年度のダンスは、①違う ②同じ ③分らない
- 8.2 (①違うと回答した人) 何が違いますか。(複数可)
 ①作品の世界観 ②動き(踊り込み) ③踊りの表現性
- ④衣装 ⑤音楽 ⑥表情
- ⑦その他 ()
- 8.3 今年はコンクールの抜本的に改革されました。改革の成果は、①感じる ②感じない
- 8.4 (①感じる)と回答した人) どういう点で感じられるか、具体的に書いてください。

■9 特別審査員について

- 9.1 外編から先生をお呼びすることに ①賛成 ②反対 ③どちらでもよい
- 9.2 特別審査員を外編からお呼びする場合は、どのような人を希望しますか。(複数可)
 ①今年のような高校のダンス部顧問 ②中学校のダンス部顧問 ③大学の研究者(教授)
 ④大学院生 ⑤芸術家(舞作家、ダンサーを含む) ⑥その他 ()

() 年生 () 組 () 番 ()

実施校：奈良の水女子大学附属高等学校
 実施年月日：2004年 月 日

■10 今後のダンスコンクール開催について ①賛成 ②反対 ③どちらでもよい

10.2 (①賛成)と回答した人) その具体的な開催意義について、自由に書いて下さい。

10.3 (②反対)と回答した人) その具体的な理由について、自由に書いて下さい。

★10.4 (2年生のみ記入) もし可能であれば来年度もコンクールに参加したいですか？
 はい いいえ

★10.5 (2年生のみ記入、(0)はい)の人の人) いった頃を希望しますか。
 月頃

■11 大学舞踊科のゲストパフォーマンスについて
 今回、皆さんとより年齢の近い大学生の踊りによる真摯な自己表現を見てもうためにパフォーマンスをしてもらいました。その感想についてお聞かせください。

- 11.1 大学舞踊科の学生たちによる3つの作品のうちどれが一番印象に残りましたか。
 プログラム1 「CELL BLOCK TANGO」～映画「シカゴ」より
- プログラム2 「古舞記」～イザナミ・イザナ
- プログラム3 「カルテ」～少女の心の中にひそむもの
- 11.2 その作品が印象に残った理由について書いて下さい。(自由記述)

■12 最後に、ダンス歴について

- 12.1 ダンス歴 ①ある ②ない
- 12.2 (①ある)と回答した人、複数可) ジャンルと経験年数について
 クラシックバレエ () 年 モダンバレエ () 年
- モダンダンス () 年 ジャズダンス () 年
- ストリート系 () 年 コンチンポラリー () 年
- ミュージカル系 (宝塚、劇団四季を含む) () 年
- 社交ダンス () 年 その他 () 年
- 12.3 劇場でダンス作品を鑑賞したことが
 ①ある ②ない
- 12.4 (①ある)と回答した人、複数可) ジャンルと回数について
 クラシックバレエ () 回 モダンバレエ () 回
- モダンダンス () 回 ジャズダンス () 回
- ストリート系 () 回 コンチンポラリー () 回
- ミュージカル系 (宝塚、劇団四季を含む) () 回
- 社交ダンス () 回 その他 () 回
- 12.5 今後ダンスを習う可能性は ①ある ②あるかもしれない ③わからない ④ない

■13 全体的な感想、今後の課題(クラス、個人)を自由に書きなさい。

平成 16 年度 第 55 回校内ダンスコンクール アンケート

※このアンケートは、今回のダンスコンクールにおける審査員の意識について調査するものです。今年度の研究発表データとして、また来年度以降のダンスコンクールの開催時の参考資料として使用しますのでご協力のほどお願いいたします。

注：自由記述スペースが足りない場合は、裏面をご利用ください。

<はじめに>

■1、2年時のダンスコンクールでの様について以下より選択してください。
(欄だけの人は「なし」を選択)

①ダンスデザイナー ②衣装 ③音楽 ④なし ⑤その他 ()

1年時	<input type="checkbox"/>
2年時	<input type="checkbox"/>

■1 審査の観点について、どのような点を一番評価しましたか。

1.1 グランプリ作品について (複数可)
①作品の完成度 ②動き ③衣装 ④音楽 ⑤表情 ⑥その他 ()

1.2 グランプリ作品として適切だと思ふ観点について具体的に書いて下さい。(自由記述)

1.3 衣装賞作品について (複数可)

①デザイン性 ②色の選び方 ③素材の選び方 ④衣装全体の適切さ
⑤作品イメージ(タイトル)との一致 ⑥その他 ()

1.4 衣装賞作品に適切だと思ふ観点について具体的に書いて下さい。(自由記述)

1.5 今年のダンスの中でもし自分が出演者なら踊ってみたい、作ってみたいダンスは？ (一つ選択)

①1U『流星』 ②1K『猫』 ③1R『魔法の夜』
④2U『茶梅春～サバイバル』 ⑤2K『青春』 ⑥2R『胡蝶の夢』

■2 例年との比較

2.1 昨年度と今年度のダンスコンクールは、①違う ②同じ ③分からない

2.2 ①違うと回答した方)何が違いますか。(複数可)

①作品の完成度 ②動き ③衣装
④音楽 ⑤表情 ⑥踊りの表現性
⑦その他 ()

2.3 今年はコンクールの抜本的に改革されました。改革の成果は、①感じる ②感じない

2.4 ①感じると回答した方)何が違うと思うかご自由に、また具体的に書いて下さい。

() 年生 () 組 () 番 ()

実施校：お茶の水女子大学附属高等学校
実施年月日：2004 年 月

■3 特別審査員について

3.1 外部から先生をお呼びすることに ①賛成 ②反対 ③どちらでもよい
3.2 特別審査員を外部からお呼びする場合、どのような人を希望しますか (複数可)
①今回のような高校のダンス部顧問 ②中学校のダンス部顧問 ③大学の研究者 (教授)
④大学院生 ⑤芸術家(振付家、ダンサーを含む) ⑥その他 ()

■4 今後のダンスコンクール開催について ①賛成 ②反対 ③どちらでもよい

4.1 ①「賛成」と回答した方)ダンスコンクール開催意義について、自由に書いて下さい。

■5 大学舞踊科のゲストパフォーマンスについて

今回、生徒たちとより年齢の近い大学生の踊りにより真摯な自己表現を見てもらうためにパフォーマンスをしてもらいました。その感想についてお聞かせください。

5.1 大学舞踊科の学生たちによる3つの作品のうちどれが一番印象に残りましたか。

①プログラム1「CELL BLOCK TANGO」～映画『シカゴ』より
②プログラム2「古舞踊」～イザナミ・イザナギ
③プログラム3「カルデ」～少女の心の中にひそむもの

5.2 その作品が印象に残った理由について書いて下さい。(自由記述)

■6 最後に、ダンスの経験について

6.1 ダンス歴 ①ある ②ない
6.2 ①「ある」と回答した人、複数可)ジャンルと経験年数について
①クラシックバレエ () 年 ②モダンバレエ () 年
③モダンダンス () 年 ④ジャズダンス () 年
⑤ストリート系 () 年 ⑥コンテンポラリー () 年
⑦ミュージカル系 (宝塚、劇団四季を含む) () 年
⑧社交ダンス () 年 ⑨その他 () 年

6.3 劇場でダンス作品を鑑賞したことが

6.4 ①「ある」と回答した人、複数可)ジャンルと回数について
①クラシックバレエ () 回 ②モダンバレエ () 回
③モダンダンス () 回 ④ジャズダンス () 回
⑤ストリート系 () 回 ⑥コンテンポラリー () 回
⑦ミュージカル系 (宝塚、劇団四季を含む) () 回
⑧社交ダンス () 回 ⑨その他 () 回

■7 その他全体的な感想、意見などご自由にお書き下さい。

◎ご協力ありがとうございました。教官室前「ダンスコンクールアンケート提出箱」に提出ください◎

平成16年度 ダンスコンクール特別審査員講評(6クラス別)

※ A～Fはそれぞれの審査員を表す

1年蘭組『魔法の夜』

① 全体としていかにテーマが表現されているか

A	キカイ、サーカスが良くわからなくて、うーん…
B	魔女が人々を変えてしまう様子が良く出ていた。
C	ストーリー性はあるが、演技をもう少し。突拍子のなさがおもしろさでもある。アイデアはたくさん感じられるがまとまりきれなかったかな。
D	テーマは全体的に表されている。
E	ファンタジックで心地よく安心して見られた。
F	ダンス解説文に沿って素直に作られた作品。魔女とその他の人の対比の動きなど工夫あり。マスクゲーム、サーカスの部分も見ていて良くわかった。アイデアユニーク。

② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに工夫されているか

A	空間がいつも狭い。1曲目、2曲目キカイなのかな？魔女とみんながもつとリンクしたらいいのに。
B	やや四角、平面的構成に偏っている感がある。
C	ストーリーの展開に合わせてもう工夫欲しい。
D	体いっぱい使えるといいと思います。バク転ガンバツ！！
E	よく考えていました。四角い構成が多かったのですね。身体の高さをもっと変えてみるといいかも。
F	変化あり。グラウンド全面を使っていた。

③ 音楽、効果音の選び方は適切か

A	音楽よいと思う。つながりも良い。
B	3曲目は構成と音楽が良くあっていた。
C	音のジャンルがいろいろでおもしろいが、つながりが途切れがち。
D	雰囲気が出ていた。
E	イメージに合っていました。
F	ワルツの始まり。テーマにあっていた。展開部分、現代社会の一面をのぞかせる曲。七変化おもしろい。

④ コスチュームは効果的か

A	何故青？何故金に？3色のは可愛い。→ちゃんと着脱する工夫を。
B	青のTシャツが合っていないのでは？スカート、ズボンが魔法によって別物になってしまうのがおもしろい。
C	トップスのTシャツが味気なかったかも。
D	魔女のはわかりやすい。
E	工夫されていて楽しめました。所々衣装の裾など直す仕草が気になりました。
F	魔女とその他の人のコスチュームに工夫あり。七変化のコスチュームもおもしろい。一枚一枚脱ぐのが大変だったでしょう。

⑤ 踊りこみは出来ているか(一人一人の動きが)十分生きているか

A	1曲目 舞踏会風景。恥ずかしそうにしている。もったいない！！魔女おもしろい(この人くらいやって!)。集中していない人が多い。もっと大胆に！！3曲目は良い。
B	もっと元気に！リフトはgood。
C	自信なさそうにしているしている人がいた。もっと大胆にやってもいいんじゃないかな。
D	下を向いて踊っている人が多いので気になる。
E	つながりで多少「素」になるところを感じましたが、頑張っていましたね。
F	よい。もう少し身体全部を使って！！

1年菊組『猫』

① 全体としていかにテーマが表現されているか

A	イントロいい。客をつかんだ。ラストの前進きいた。2匹も可愛い。
B	「猫」って一人一人の色々な個性が見えておもしろいテーマ。全体を通して一貫性があって私は好きだと思った。
C	個性的な作品。
D	猫らしさは出ていた。
E	ショーのような楽しさがみな笑顔からもよく伝わってきました。
F	作品の出、おもしろい。猫の不思議さを連想させるようなおもしろい作品。みんなの気持ち伝わってきた。いかにも猫というポーズではなく、少しデフォルメ(強調)した動き(よい)。

② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに工夫されているか

A	イントロから上手く展開している。変に踊っていないシーンがあるのがもったいない。ラインや円、群をうまく使ってる。
B	猫の手の動きをモチーフにカノン(1人ずつずれて動く方法)で動くところ、シンプルでおもしろい。動き一つ一つのダイナミズムはさらに工夫できそう。
C	猫の動きをかわいく、そしてエネルギッシュに踊った。白ねこ黒ねこ関係がよく見えた。
D	動き方が小さい。
E	視線の使い方が上手でした。たくさん変化がありましたね。
F	各場面で工夫されているがグラウンドいっぱい広がって舞う(踊る)部分欲しい。

③ 音楽、効果音の選び方は適切か

A	1曲目と2曲目の選曲面白い。タンゴとか色々変化よい。少し曲数が多くてポイントがずれていく感じ。
B	「猫」にちなんだ曲選び。日本語なので(が多いので)理解しやすい。
C	音の選択、つなげ方にいいセンスを感じる。しかし曲数多い。
D	猫で揃えた。
E	曲数が多いのでは？
F	テーマに合っていた。歌詞が入っている曲の使い方おもしろい。曲の使い方が少し細切れ。

④ コスチュームは効果的か

A	かわいい。白黒もはっきりしている。
B	白と黒が分かれたり入り混じったりの変化がおもしろかった！白スカートの下の黒スパッツがちょっと残念。
C	猫の模倣。白と黒の色を生かして構成をもっと工夫しても。
D	色分けしてあり、細かい所まで猫を意識している。
E	シンプルで踊りやすそうで良かった。
F	いかにもキャッツのコスチュームおもしろい。

⑤ 踊りこみは出来ているか(一人一人の動きが)十分生きているか

A	モチーフ「猫」がうまくできていた。もっと大きく動いて。
B	声が出るのはgood。
C	前進するパワーあり。もっと個性出せるぞ。
D	表情が楽しそうだしいいのだけど！もう一步(目の煌きが！)←プログラム
E	みんながとても楽しそうなので安心して見ました。
F	よい。音楽にのってみんなが楽しそうなのが好印象。

1年梅組『超☆星(スーパースター)』

① 全体としていかにテーマが表現されているか

A	色々考えずに見れた。すっきり納得。
B	みんながよく踊っていた。まとまりもあってgood。でも一人一人がもっとスターになれるのでは？とも思うのです。
C	show的なテーマだが、一人一人が良く見える作品に仕上がった。
D	スーパースターなので笑顔が輝いて欲しいな。
E	一人一人がスターになるような踊り以外の踊りを入れてみてはどうでしょうか。
F	音楽にのって楽しそうな作品の出、リズムカルな動きが良い。小道具の使い方も上手でした。それに小道具にこだわらず、最後がグランドいっぱいスターが誕生して魅せました。

② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに工夫されているか

A	ショーダンスとして面白く展開している。
B	リボンを使っての隊形変化が工夫されていた。
C	隊形移動good。リボンをよく工夫した。
D	隊形や動きがもう少し全体的に大きいといい。ラストの曲はgood。
E	上手な空間展開でスムーズでした。
F	変化があり面白かった。

③ 音楽、効果音の選び方は適切か

A	自然にスターが「星」に。よい。
B	ミュージカルの音楽「魅せる」作品に仕上がった。
C	音にメリハリがあってストーリー性が見える。
D	つながりがしっかりしている。バラエティに富んでいる。
E	合っている音を上手く構成していた。
F	テーマに合った選曲よい。終始楽しく見られた。

④ コスチュームは効果的か

A	☆ステキ！！ラインテープもヒカル！！小道具使い方が良い。流星っぽい。
B	リボンの使い方が工夫されていた。また要らないときは隠せるのがgood。
C	ズボンの金ラインが映えていた。
D	色の組み合わせはとてもきれい。ズボンはもう少し太い方が・・・。
E	落ち着いた色合いでステキでした。
F	テーマにあっているが、ズボンが重い。(ゴメンナサイ)

⑤ 踊りこみは出来ているか(一人一人の動きが)十分生きているか

A	ジャズっぽい振り付けかわいい。よく動きを理解している。
B	よく踊りこみされていたように思う。リボン使い頑張った！
C	一人一人が良く合わせようと努力した。笑顔が可愛かった。
D	場所移動したら動かない。リボンの操作が難しいな。
E	練習も楽しかったことでしょうネ！よく踊りこんでいました。
F	よい。練習されていた。

2年蘭組『胡蝶の夢』

① 全体としていかにテーマが表現されているか

A	羽化するかんじステキ。テーマそのものが理解しにくいのですが、イメージとしては分かる。
B	ストーリーがよく現れていたと思う。人間になった後の笑顔がとても好印象。
C	冒頭部世界観あり。蝶から人？人から蝶？自分への追求が見えた。展開が分かりやすい。ラスト惜しい。もうちょいナリきって！！
D	スタートがとてもよく蝶の表現が出来ている。
E	表情の変化が好印象でした。難しいテーマの挑戦に好感！ながれがすばらしい。
F	作品として一つの流れが感じられた。音楽と動きが大変よく合っていて、大人の作品。動きとリズムの変化が6クラスの中で一番でした。魅せられました。

② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに工夫されているか

A	工夫があちこちに見られる。流れがとてもよい。ラストありきたりでザンネン。
B	隊形変化と動きの組み合わせがより複雑で高度になっている。
C	まとまりすぎてややおもしろみにかける。もっと斬新な構成や動きにチャレンジしてもよかったかも。
D	動きのとらえ方が上手。展開がおもしろい。腕の表現がきれい。音やリズムのとり方が◎。
E	柔らかな身体のラインが大人っぽさを感じさせたり。
F	グランドをいっぱいに使っているか。円は？とか考えてみていなくても、全体的にスムーズな変化でとってもよかったです。

③ 音楽、効果音の選び方は適切か

A	インパクトの薄い選曲。さりげない感じ。
B	good。大人っぽい。
C	壮大な曲に合わせた力強い踊りが見られた。速いテンポで踊りをとらえることが出来ていた。
D	スムーズ
E	曲選び、つなぎ、上手でした。
F	長の誕生からの曲の使い方よい。

④ コスチュームは効果的か

A	衣装の変化がわかりにくい。袖効果的。
B	羽を取ると人間に・・・分かりやすかった。
C	トップスの布量もう少し少なかったら洗練された。色も中黒でないものでも。スカートの広がり、袖の動きは広いグランドで効果的○。
D	蝶らしさがよく出ている。
E	美しくゆれてよかった。少し上半身が重い感じ。
F	ねらいは分かるが上半身がやや重い感じ。

⑤ 踊りこみは出来ているか(一人一人の動きが)十分生きているか


A	よく動いているが印象に残らない。
B	踊りが揃っている。一人一人の感情表現力も垣間見えた！
C	踊りの気が合っていた。故事をみんなで理解し、よく解釈を深めたのが出ていたか。
D	動きにキレがある。表情もシーンごとにしっかりしている。
E	よく踊りこんでいた。
F	音楽にのった体の使い方、よい。蝶の動きが動きに込められているのが感じられた。

2年梅組『サバイバル～茶梅春』

① 全体としていかにテーマが表現されているか

A	流れとしてはよくわからなかった。何がどう展開したのか???
B	「女」、「魅惑的」、「戦い」のキーワードをよくとらえて動きにしていたと思う。
C	激しさと色っぽさが混在してよかった。
D	スタート雰囲気が出ていた。もっとサバイバルらしさを(生きるための戦いを)。タイトル、当て字でない方が…。
E	気迫が伝わった。一貫して流れる気持ちの強さがよい。オリジナリティ◎。
F	①作品の統一かたまり集団探し求め始める感じがよい。②女たちの目覚めから優雅にリズムカルに踊る場面から、最後の群舞が魅せた。③求め、模索する最後よい。

② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに工夫されているか

A	群の動きが小さい。手だけしか動いていない。3群長い。板付きダンスばかり。流れで構成を変える工夫を。円で走ったのはよい+ジャンプも。ユニゾンが多い。
B	3角形のカノンもおもしろい。 
C	構成、カノンの使い方(始まりの部分に工夫が見られる)よし。つなぎももう少し詰まるとgood。
D	スタートがとても好印象。とても迫力があつた。後半も迫力があつた。
E	中腰の姿勢、群の強さを上手く生かしていた。円で走るところが好きですネ。ラストの群の使い方もgood。
F	①空間の中央から広がり3グループに分かれての Rond 形式おもしろい。②円からの流れ変化あり。③空間いっぱい広がった乙女たちのリズムカルな動きよい。

③ 音楽、効果音の選び方は適切か

A	自然にスターが「星」に。よい。
B	1曲目-2曲目のつなぎワルイ。曲をつなぐ、または1曲目の中で広がればよりよい。2曲目-3曲目の間が無駄に長い。3曲目-4曲目も同様。
C	4曲目、戦いの強さを出していた!
D	無音が多い。
E	曲のつなぎの間が長いのが気になる。ちょっと踊って無音…というのの繰り返し。
F	局のつなぎの空間が気になった。曲数多い? 途切れてしまうのが残念。
F	音楽のつなぎ、雑音は機械のせい? テーマには合っていた。

④ コスチュームは効果的か

A	かわいい。パンツがドッキリ。赤布よい。もっと大きくてもよかったかも。
B	手と黒の赤の紐、リボンがgood。
C	セクシー。ステキ!! 恥ずかしがらずによく着こなした。
D	髪型も効果的。
E	野性的な強さを効果的に表していた。
F	テーマにふさわしいデザイン。センスよい。身体表現を邪魔しない。シンプルさも気に入った。

⑤ 踊りこみは出来ているか(一人一人の動きが)十分生きているか

A	全ての動きが小さい。3曲目上手の子いい。4曲目よかった。迫力あつた。
B	腕の斜めの角度強さがあっていない(最初)。3曲目、皆さんよく踊っていました。
C	大胆な踊りの表現よし。身体を使って(張って)アプローチしていた。
D	よく踊っていた。
E	よく踊りこんでいました。
F	一人一人がよい。

2年菊組『青春』

① 全体としていかにテーマが表現されているか

A	ストーリーの起伏が激しく、それが逆にパワーダウンな(長い)感じに見えた。
B	踊り手一人一人の「今」がよく出ていたと思う。
C	やりたいことを盛り込むパワーを感じる。自分たちの「青春像」を元気にセンチメンタルに表現した。
D	テーマに沿った表現がしっかり出来、意外性○。
E	心の動きがシーンごとによく伝わってきた。気持ちが表情に出ているのできゅんとした。
F	青春の楽しさから、けんか、憎しみ、悩みへと変化していく様子が素直に表現されていた。1部から2部(もののけ)への変化見事。大人へ変化する少女の姿が感じられる。最後の盛り上がり力(エ

② 空間の使い方、動き、構成(隊形)がいかに工夫されているか

A	構成・入り・ハケに工夫あり。展開をセリフに全部たよるのはイカン…
B	横一列を使ったのはこのチームだけかな?と思うくらい印象的。
C	曲調に合わせた空間の取り方good。一番大きく空間を使っていた。一番ダッシュしていた!!!
D	空間が大きく使えている。
E	人数を変えた構成が効果的。
F	グランド一杯。円、線。

③ 音楽、効果音の選び方は適切か

A	2曲目、曲と衣装の違和感あり。
B	元気一杯の曲。ちょっとセンチメンタルな曲、それぞれのシーンにあった曲だと思う。
C	「語り」(もののけ)への展開がもう少し丁寧だとよかった。ドラマ仕立てのスパイスが効いていた。
D	ちょっとぶつ切れなのが惜しい。
E	歌のある曲を使うのは難しいと思うのですが頑張っていました。
F	青春そのものを感じさせる場面展開でした。セリフがよい。最後のキラメキ!!流石、流石!

④ コスチュームは効果的か

A	小さいぼんぼんかわいい…黄色が生えるチア一風。
B	青春な雰囲気のでているコスチューム。
C	シーンの最後、しみりした時にチアで黄色がイメージを壊していた。一人で踊るなら様になったかも。でもたくさんいたからシーンの世界を邪魔した。
D	「OCHA」ない方が青春してる「人」「若者」が見えたかも。
E	明るくシンプルですばらしい。
F	テーマに合っている。「OCHA」おもしろい。

⑤ 踊りこみは出来ているか(一人一人の動きが)十分生きているか

A	楽しそうに全身で表現、よい。
B	位置を間違えたり、ちょっと分からなくなったりする人が目立ってしまった。よく踊れている人が多いのにもったいない。
C	生き生きとそして、表現的に踊れて、○。
D	よく踊れている。
E	よく踊りこんでいました。
F	のびのびと気持ちを込めて踊っていた。

ダンスコンクールに関する「教職員コメント」集計結果

例年のダンスコンクールとの具体的な違いについて	開催意義について	全体的な感想・意見
今後も続けた方が良く、質が高くなった、表現性がかなり増した。(2年生)、完成度の高さ。芸術性。	ゲストパフォーマンスは質の高いものを見るという意味では良い。時間をとりすぎでは。審査集計の時間稼ぎなら仕方ないが。	来年も是非このように出来るといい。
大きくは感じないが生徒の取り組み意識は変わったように思う。	一つの作品を作り上げる過程での生徒の動き、働き、例えばクラスでの話し合い、役割分担、生徒同士の協力等	今年はすばらしいコンクールでした。体育祭の応援ダンスの再現のようなダンスコンクールには正直言って食傷気味でした。
練習期間が短いと思う。高2は作品が完成されていたが高1の2クラスは踊りも覚えていない人も何人かいた。外部から先生をお呼びするには、それなりに完成されたものでなくては失礼ではないか？高1の段階では仕方ないのでしょうか。	ダンスコンクールに関わらず、行事を教員側からやめる云々言うべきではないし、教科としてやる意義があるなら周りがなんとやろうとするべき。	体育科の行事ではないが、体育の時間を使い、舞踊の実習生も来るのだから、もっと指導を入れても良いと思う。負担に思う生徒がいるのも事実だが、衣装などはシンプルにして準備を早めにして直前の負担感を減らしていけばよいのでは・・・？
ダンスらしさ。指導が行き届いていた。担当者が専門だとこうも違うのだと実感！、身体を動かし表現する楽しさを経験するのはよいことだと思います。「抜本的」とは思いません。長年の流れの中での変化ととらえています。	担当教官の事を考えると、また元の黙阿弥になってしまう可能性が高く今までのような形骸化したものになってしまうのなら、やめてしまった方が良くと思う。合唱コンクールも始まるので、体育的な行事は減らさざるを得ない。たまたし継続するなら、会場はホールとし、時期も一学期にして3年生も参加させるべきと思う。	ダンスコンクールは生徒主体の行事であるが体育の授業も使って練習するのもあるから、専門的な指導をどんどん入れてレベルアップをしてゆくのに賛成です。表現力と共に鑑賞力も指導によりアップすると思います。
抜本的に改革とはいえないが、一部変わった。特に外部講師を招いたこと、学部生によるダンスが3団体もあつた事、(以前はあつても教生1つ+3年生1つくらい)	クラスで作品を作るというのは体育祭の応援で3年主導で創るよりも困難を伴うが、逆にクラスで何かを成し遂げる機会となる。また伝統ある行事を安易につぶしてはいけない。ただしより完成度の高いものを目指して指導すべきだと思う。	行事って生徒にどれだけ達成感をつきさせられるかというのも大切な要素だと思います。それは一部の生徒だけではない筈。全体のモチベーションを保たせるよう支えていくのは、「教員集団」の力量にもかかってくと感じています。学校の雰囲気作りの大切さを痛感している今日この頃・・・。
表現性に重点が置かれていたと感じました。あと生徒の一部の声なのですが評価基準がはつきりして良かったとのことです。(私もそう思います)2年生の作品は全体的に完成度が高く、すばらしかったと思います。	何年も伝統ある行事であり、かつ大学とのつながりも深い。附属中でも同様の取り組みを行っている。プラス体育授業とのからみ等を考えると、やめるのは簡単だが、これをまた一から作り上げるのは難しいと思う。ただ、ここに来てこの行事の意義について再度考える必要があると思う。(行事検討委員会+指導部+体育科?)	今年度のダンスコンクールはやはり専門家が指導すると作品の完成度があがるな、と感じました。ご苦労様でした。ただ、ダンスコンクールは輝鏡祭の一部で自治会の活動の一つなので生徒の運営する行事です。三浦先生もいつも苦労されていましたが、生徒の自主性を生かしながらどこまで指導を入れるのかバランスが難しいのでしょうか。
すこし「締まった」感じがしてよかったです。	伝統があるし、本校の特色として大切なものです！	今までのやり方がよいとは限らないという視点が本校の教員にも生徒にも良かった
体育祭、応援部門のマスゲームとは全く異なった表現性の高い作品が出された事。企画段階での指導が功を奏したと思われる。	辞める事は簡単だが復活させることは難しい。全員が授業を受けている、かつ創造性の高いもので他に変わるプランがないのだから生徒の発達上も有効である。(cf.合唱コンクール…音楽は選択者のみの授業、一から創る訳ではない→創造性低い)	今年度は完成度が高く良かったと思う。ただ準備・後片付けなどでの動きに問題が多く、生徒の行事に取り組む姿勢に問題を感じた。出演者としての意識だけではなく、行事自体を作るのだという意識を持たせる指導が必要だと思う。
指導が入ったおかげで今までとは全く次元の異なる本格的なコンテンポラリーダンス(的)なダンス作品が多かった。	今回のように、ダンスとは感情表現の一つと考えるコンクールであれば、その練習の成果としてコンクールをしても良いと思う。クラス単位であることも大切。大学との連携の面でも今回良かった。	個人的には「鑑賞」とか「観戦」というのが苦手。ダンスだけではなくミュージカルでもスポーツでもやる方が好き。ですからダンスコンクールも教員チーム参加で。
全体的に完成度が高く、審査員賞も視野に入れた練習をしているなど、取り組む生徒の意識も高かったように思う。	今年度のコンクール、専門家が入り作品の完成度が上がった。生徒の自主性と指導の兼ね合いが難しい。	
表現性が高まった。衣装が以前より簡素に成すっきりした。「やりたくない」という空気が改まった。	伝統ある行事だし、身体で何かを表現することを学ぶ、また、クラスで一つのことを完成させることは貴重である。	
伝統ということでは続けて欲しいが生徒の参加意欲の方がより重要	伝統は守りたい！今時の生徒にこのレベルを維持させるのは、努力と体力、気力が必要だが一部の教員の負担とならぬよう、教育のバックアップ体制は整えていくべき(どの行事にも言えることですが)。	
	他校でもこういった形(運動会の一科目ではなく)でやるのではないのではと思うし、皆とてまたのしそりにやっているので。	

(以上、アンケート結果より 池田作成)